

地底の森ミュージアム・縄文の森広場年報

2025

仙台市富沢遺跡保存館
SENDAI CITY TOMIZAWA SITE MUSEUM

仙台市縄文の森広場
SENDAI CITY JOMON SITE PARK

目 次

目次

例言

地底の森ミュージアム・仙台市縄文の森広場

1. 施設の概要	1
2. 組織・運営	1
3. 沿革	2
4. 整備の目的と基本方針	8

[地底の森ミュージアム]

1. 令和6年度事業報告	12
(1) 展示事業	12
(2) 普及啓発事業	15
(3) 調査研究事業	20
2. 施設管理	20
(1) 保守点検	20
(2) 施設・設備などの修繕	20
3. 利用状況	21
4. 入館者アンケート	22
5. 令和7年度事業計画	22
(1) 展示事業	22
(2) 普及啓発事業	23
(3) 調査研究事業	25
(4) 資料の収集・保管	25
(5) 管理運営	25
(6) 刊行物	25
6. 利用案内	26

[仙台市縄文の森広場]

1. 令和6年度事業報告	27
(1) 展示事業	27
(2) 普及啓発事業	29
(3) 体験活動事業	31
(4) ボランティア活動事業	32
(5) 調査研究事業	33
2. 利用状況	34
3. 入館者アンケート	36
4. 令和7年度事業計画	36
(1) 基本方針	36
(2) 展示事業	36
(3) 普及啓発事業	36
(4) 調査研究事業	38
(5) 資料の収集・保管	38
(6) 管理運営	38
(7) 刊行物	38
5. 利用案内	39

例 言

- 本書は、公益財団法人仙台市市民文化事業団が仙台市より指定を受け、令和6年度に実施した仙台市富沢遺跡保存館指定管理業務（仙台市縄文の森広場を含む）の各事業などに係る実施報告と、令和7年度事業計画である。
- 本書の編集は地底の森ミュージアム、仙台市縄文の森広場の各職員が行った。

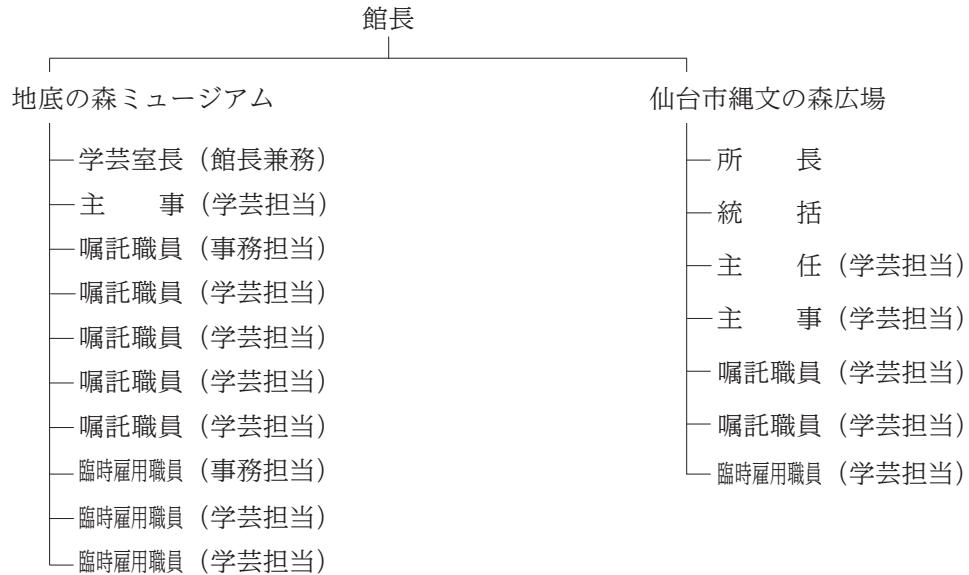
地底の森ミュージアム・仙台市縄文の森広場

1. 施設の概要

	地底の森ミュージアム	仙台市縄文の森広場
開館日	1996年(平成8年)11月2日	2006年(平成18年)7月15日
設置場所	〒982-0012 仙台市太白区長町南四丁目3-1	〒982-0815 仙台市太白区山田上ノ台町10-1
敷地面積	14,263m ²	27,350.94m ²
延床面積	2,743m ²	1,211.78m ²
建築構造	地下1階 地上1階 鉄骨鉄筋コンクリート	鉄筋コンクリート造一部2階建
特徴	<p>建物は、コンクリート打放しの楕円形をしている。周囲の壁は地下の遺跡の保存と公開のために、建物基礎を兼ねた厚さ80cmの連続地中壁であり、それを地下20mまで築いて地下水を遮断する構造である。</p> <p>建物内部については、地下の遺跡展示室は柱のない広がりをもった大空間となっており、中地下も含めて、床にはアスファルトブロックが敷かれ、照明を抑えて清謐な雰囲気をしている。対照的に1階は床を板張りとし、自然光を取り入れた明るい空間となっている。中でも、来館者にとっては最後の空間となる展望ラウンジは窓を大きくとり、そこからは野外展示の氷河期の森が眺められるようになっている。</p>	<p>野外には、復元した竪穴住居3棟を中心にその他の遺構を表示し、環境とともに集落を再現した縄文ムラゾーンと、未調査区でイベントや発掘体験などを行う広場ゾーンがある。</p> <p>その北側の一画に出土資料などを展示し、各種体験活動ができるガイダンス施設を付設している。</p>

2. 組織・運営

両館の管理・運営は、仙台市より令和4年度から令和8年度までの5ヶ年間の指定管理者に指定された公益財団法人仙台市市民文化事業団が行っている。令和7年4月1日時点の職員配置は下記のとおりである。



なお、地底の森ミュージアムは受付・案内業務、常駐警備業務、清掃業務を、仙台市縄文の森広場は清掃および復元住居の火焚き業務を民間に委託している。

3. 沿革

	地底の森ミュージアム	仙台市縄文の森広場
1980年 昭和55年		宅地造成にともなう山田上ノ台遺跡の発掘調査で、縄文時代中期末を主とする竪穴住居跡などの多数の遺構が発見され、集落構造の全体がわかる遺跡の重要性から保存を決定する。 遺跡の活用を図るために「(仮称)原始古代村構想」の検討がスタートする。
1982年 昭和57年	地下鉄建設にともなう試掘調査で富沢遺跡が発見される。	
1984年 昭和59年		旧石器時代資料の充実を図るために第2次調査を実施する。
1988年 昭和63年	富沢遺跡第30次発掘調査において2万年前の人類の生活跡と森林跡が発見され、仙台市は遺跡の重要性に鑑み、小学校の建設地を変更し保存と活用を決断。	
1989年 平成元年	保存科学・地質学・遺跡整備・都市工学・動物生態学など各界の学識者からなる基本構想策定委員会を設置し、富沢遺跡と山田上ノ台遺跡とともに活用する方針で「仙台市旧石器の森・原始古代村の整備および仙台市考古系総合博物館基本構想報告書」を策定。	
1990年 平成2年	「基本構想」において検討課題であった遺跡の保存処理工法について「富沢遺跡保存技術調査報告書」(仙台市考古系総合博物館基本計画)を策定。	
1991年 平成3年	「(仮称)原始古代村・旧石器の森整備基本計画」を策定。	
1992年 平成4年	富沢遺跡保存館の建築基本設計、展示基本設計、富沢遺跡保存処理方式開発の業務委託、氷河期の森広場整備基本設計を行った。	
1993年 平成5年	富沢遺跡保存館の建築・展示実施設計、氷河期の森広場整備実施設計、遺構保存処理システム策定業務委託を行った。	
1994年 平成6年	富沢遺跡保存館の建設工事に着工。	
1995年 平成7年	正式名称が「仙台市富沢遺跡保存館」、愛称が市民公募をもとに「地底の森ミュージアム」と決定。	
1996年 平成8年	4月1日より富沢遺跡保存館の管理・運営は仙台市より委託された(財)仙台市歴史文化事業団があたることとなり、その組織ができた。建築工事および展示工事が3月に完了。また、遺構保存処理作業は8月、「氷河期の森」の造成工事は8月、植栽工事は10月に完了。11月2日に開館する。	
1997年 平成9年	5月18日 天皇皇后両陛下ご来館。	
1998年 平成10年	3月7日 入館者10万人達成。	
2000年 平成12年	4月15日 入館者20万人達成。	山田上ノ台遺跡の活用整備のために「縄文の森広場基本計画策定委員会」が設置される。
2002年 平成14年	8月24日 入館者30万人達成。	第3次発掘調査により後期旧石器時代の石器が多数発見される。

2004年 平成16年	4月1日 管理・運営する(財)仙台市歴史文化事業団が(財)仙台市市民文化事業団に統合されたことにより、事業団が指定管理者となる。	「仙台市縄文の森広場」の建設工事が始まる。
2005年 平成17年	5月19日 入館者40万人達成。	第4次発掘調査
2006年 平成18年		「仙台市縄文の森広場」が完成。7月15日に開館する。 第5次発掘調査開始
2007年 平成19年	9月11日 入館者50万人達成。	7月15日 開館1周年記念イベント開催(記念植樹や演奏会などで祝う)。
2009年 平成21年		5月4日 入館者10万人達成。
2010年 平成22年	6月12日 入館者60万人達成。	
2011年 平成23年	3月11日 東日本大震災により休館。 6月14日 再開。	4月12日 再開。
2012年 平成24年	4月1日 管理・運営する(財)仙台市市民文化事業団が公益法人となる。	8月7日 入館者20万人達成。
2013年 平成25年	9月14日 入館者70万人達成。	
2015年 平成27年		11月3日 入館者30万人達成。
2016年 平成28年	6月12日 入館者80万人達成。	
2017年 平成29年	2月18日・19日 地底の森ミュージアム 開館20周年・仙台市縄文の森広場 開館10周年を記念して、シンポジウムを開催。	
2018年 平成30年	9月22日 入館者90万人達成。	
2019年 平成31年		4月30日 入館者40万人達成。
2020年 令和2年	4月11日～5月17日 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため臨時休館。	
2021年 令和3年	3月26日～5月11日 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため臨時休館。 8月31日～9月12日	
2022年 令和4年	3月17日 福島県沖地震復旧作業のため臨時休館。 7月9日 入館者100万人達成。	
2024年 令和6年	3月13日 仙台市富沢遺跡保存館・全谷先史博物館 国際文化交流協約を締結。	
2025年 令和7年	4月4日 入館者110万人達成。	4月19日 入館者50万人達成。

[地底の森ミュージアム]



地下展示室



外観



1階展示室

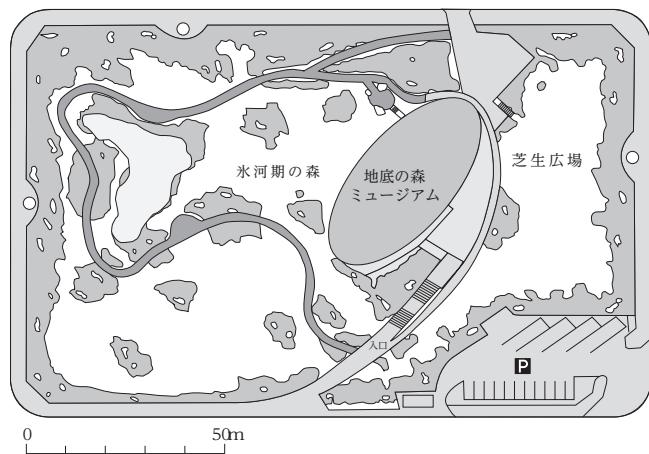


氷河期の森(夏)

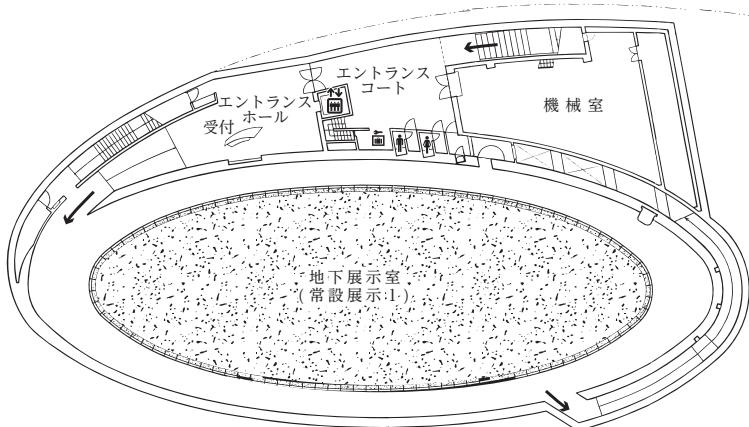
各室面積表

(m²)

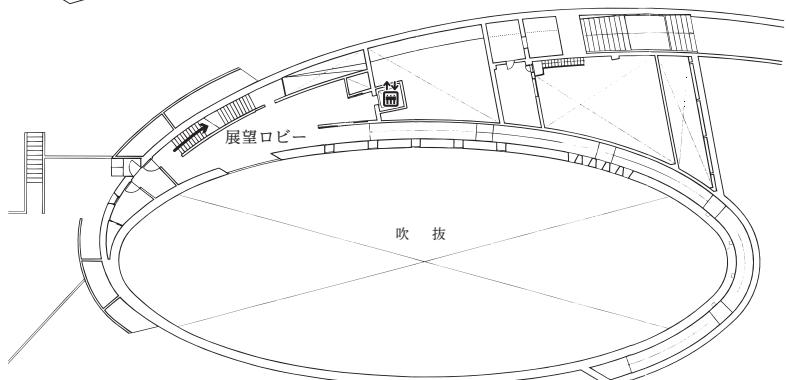
地 下	<ul style="list-style-type: none"> ・地下展示室(常設展示1) ・エントランスホール ・エントランスコート(半野外) ・トイレ ・倉庫 ・機械室 ・E V シャフト ・その他 	916 113 76 9 15 185 6 14
地 下 中 地 下	<ul style="list-style-type: none"> ・スロープ ・階段 	124 31
中 地 下	<ul style="list-style-type: none"> ・展望ロビー ・E V シャフト ・その他 	74 6 59
1 階	<ul style="list-style-type: none"> ・1階展示室 ・企画展示室 ・展望ラウンジ ・研修室 ・事務室・学芸室 ・収蔵庫 ・荷解室 ・自販機スペース ・ボランティア室 ・廊下 ・階段ホール ・トイレ ・エントランス ・守衛室 ・機械室 ・E V シャフト ・その他 	311 87 170 78 99 58 17 6 7 28 81 45 7 6 40 6 18
ピット階 (21m)		21



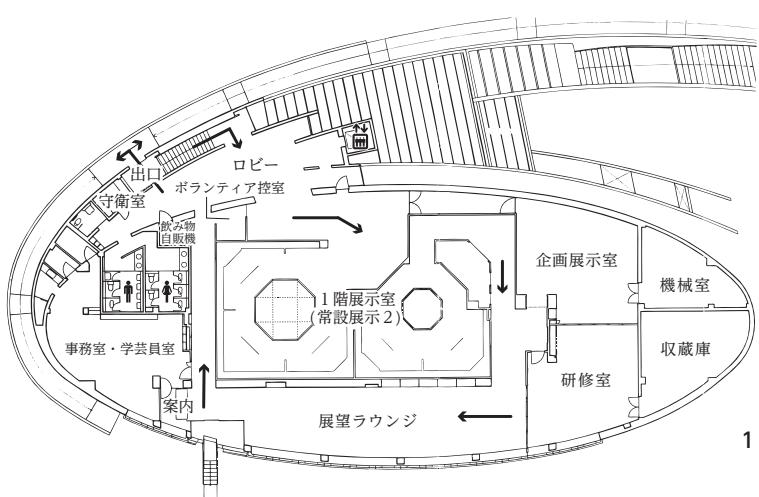
全 体 図



地下平面図



中地下平面図



1 階平面図

[仙台市縄文の森広場]



縄文ムラゾーンとガイダンス施設



展示室



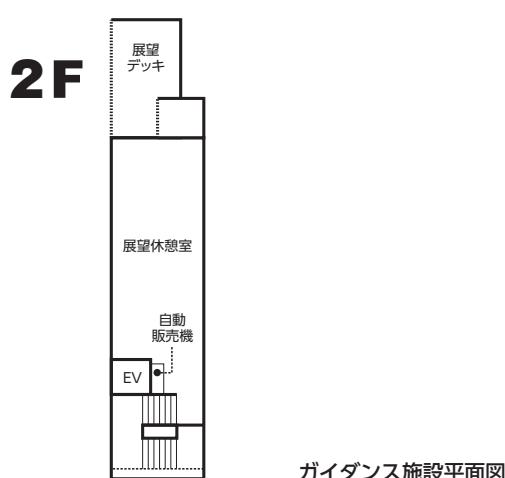
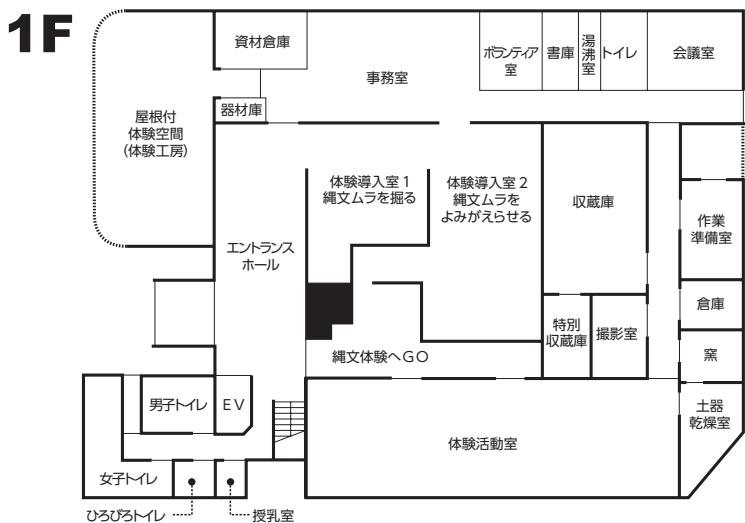
エントランスホール



体験活動室



展望休憩室



各室面積表

(m²)

体験導入室	207.93
体験活動室	160.58
屋根付体験空間	98.70
展望休憩室	69.90
収蔵庫	81.19
ボランティア室	17.10
事務室	68.08
会議室	25.42

4. 整備の目的と基本方針

地底の森ミュージアム

設置の趣旨・目的	仙台市では富沢遺跡第30次調査の貴重な成果から調査対象地区を保存するとともに、積極的に公開・活用していくこととし、樹木やたき火跡を大地から切り離さずそのままの姿で保存処理をして展示・公開する「富沢遺跡保存館」と、発見された樹木などをもとに旧石器時代の植生を復元する「氷河期の森」を一体的に整備した。 仙台市富沢遺跡保存館は、この保存された富沢遺跡の活用をとおして、主に旧石器時代の歴史や文化の理解を深めることをねらいとしている。
基本的性格・基本方針	①富沢遺跡保存館は、世界的にも貴重な富沢遺跡の歴史的価値を人類共通の遺産として保存しながら、積極的に公開・活用し、市民が誇れる施設とする。 ②富沢遺跡保存館は、旧石器時代を中心としたテーマミュージアムである。ここでは発掘された2万年前の樹木やたき火跡を現地で保存処理して公開するとともに、発見された遺物などをとおして当時の環境と人類の活動を生き生きとよみがえらせ、それを世界的な視野の中に位置付ける活動を行っていく。 ③富沢遺跡保存館の野外展示である「氷河期の森」では、富沢遺跡の調査から判明した氷河期の植生を復元し、自然の悠久なる偉大さが臨場感豊かに伝わるよう展示するとともに、市街地の中のオアシスとして市民に憩いの場を提供する。 ④富沢遺跡保存館は、来訪者に富沢遺跡がもつ歴史的な魅力をダイナミックに伝えるとともに、学校教育活動との緊密な連携を図りながら、生涯学習の視点から市民の発展的な創造力の涵養を積極的に支援する施設とする。
収蔵資料	当館の建設された経緯から、富沢遺跡から出土した仙台市教育委員会が所蔵する資料のうち、常設展示に関する資料及び旧石器時代に関する資料を借用し保管している。特に、富沢遺跡出土の球果や葉などの植物化石、シカのフンは大型冷蔵庫に収納するなど、資料の日常的な管理作業を必要とする。 【常設展示関係資料】 ①人工遺物 ○富沢遺跡第30次調査27層出土石器 111点 (K63～K167c) ○富沢遺跡第30次調査27層出土チップ 137点 ○富沢遺跡第30次調査25層など出土チップ 81点 ○富沢遺跡第8次調査出土縄文土器 1点 (A-1) ○富沢遺跡第30次調査出土石匙 1点 (K-30) ○富沢遺跡第30次調査出土弥生土器 1点 (B-5) ○富沢遺跡第30次調査出土石庖丁 1点 (K-25) ○富沢遺跡第30次調査出土須恵器坏 1点 (E-6) ②自然遺物 ○富沢遺跡第30次調査27層検出炭化物 1箱 (テンバコ32) ③模型・剥製 ○人類頭骨模型 9点 ○シカ剥製(成獣、幼獣) 3体 ④富沢遺跡発掘調査関連資料・写真資料・文献

【保管資料】

①富沢遺跡出土遺物

- 富沢遺跡第30次調査25～27層出土植物化石 2,091点
- 富沢遺跡第30次調査25層出土フン 21ブロック
- 富沢遺跡第58次調査21～41層出土植物化石 398点
- 富沢遺跡第63次調査21～25b層出土植物化石 52点
- 富沢遺跡第66次調査33～35層出土植物化石 25点
- 富沢遺跡第68次調査24・26層出土植物化石 20点
- 富沢遺跡第88次調査9～13層出土植物化石 2,663点
- 富沢遺跡第88次調査9～11層出土フン 42ブロック
- 富沢遺跡第90次調査25～27層出土植物化石 1,525点
- 富沢遺跡第90次調査25層出土フン 20ブロック

②近隣遺跡出土遺物(仙台市指定有形文化財)

- 春日社古墳出土革盾 1点

③寄贈図書

- 博物館及び教育委員会 など

④購入図書

- 定期購読図書：月刊文化財発掘出土情報・月刊考古学ジャーナル・月刊文化財・考古学雑誌・
旧石器考古学 など

- 一般図書：旧石器時代・考古学・人類学・植物学などの関連図書 など

⑤イラスト及び版画 制作：細野修一

- 特別企画展関係 54点
- その他常設展示関係など 4点

⑥その他

- 二階堂亮氏寄贈：石斧1点や文献・写真など計24点(平成9年4月17日受)

- 高橋政治氏寄贈：日本国内及びニュージーランドの土器約50点、石器約330点など計約400
点(平成14年8月19日受)

- 二階堂亮氏寄贈秋保電鉄旗立駅関連図面写し計4点(平成21年5月28日受)



地底の森ミュージアム キャラクター
富沢博士

仙台市縄文の森広場

設置の趣旨・目的	<p>遺跡の整備は、地域社会あるいは都市空間のなかで、具体的な活用の姿を示し、社会的・文化的役割を担うことを目的とし、縄文ムラの復元によって、都市の歴史的背景の一端を共有できる空間と、体験活動を通して人と自然との関わりを知ることにより、創造的な市民の意識がはぐくまれる空間を創り出す。</p>
基本的性格・基本方針	<p>【整備の基本方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①遺跡の保存整備：遺跡の保存状態を良好に維持し、後世に伝える。 ②縄文ムラの復元整備：縄文時代中期末葉を復元対象の時期として東地区に竪穴住居を数棟作り、継続的な発掘調査の成果を活かしながら、西地区を含めてその変遷を追うように建て替えを行ってムラの変化を示す。また、環境復元は現状の植生を考慮して行う。 ③市民の憩いの場としての整備：縄文人の生活した場所であることが体感できる市民の憩いの場としての整備を行う。 ④体験活動の場としての整備：ガイダンス施設や体験活動を行う場を整備する。 ⑤発掘調査の場としての整備：山田上ノ台遺跡の未調査地区を主な対象とした計画的な発掘調査を継続して行い、その成果を基に整備を行う。 <p>【活動の基本方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①体験活動：山田上ノ台遺跡の調査成果及び保存整備の意義を導入として、縄文人の生活と技術をテーマとする体験活動を展開する。体験活動は継続的な発掘調査と生活と技術の復元調査の成果をもとに充実していく。 ②発掘調査：体験活動を兼ねた発掘調査を行い、山田上ノ台遺跡の全体像を明らかにする。 ③情報の発信・受信・交流：体験活動の情報や縄文時代を中心とする発掘情報を広く市民に提供する。 ④講座・教室の開催：体験活動に関する内容を主とし、縄文時代の生活などを紹介する講座や新しい体験メニューを実践する教室を開催する。 ⑤学校・生涯学習施設との連携：学校との連携によって、小中学校などを対象とした体験学習を授業で積極的に行う。また、地底の森ミュージアムや市民センターなどの生涯学習施設と連携した活動を行う。 ⑥教職員対象講座の開催：小中学校の教職員を対象に、社会科、歴史、総合学習などの授業に関する支援と学習の場を提供する。 ⑦ボランティアの育成と支援：ボランティアの育成を行い、多様なボランティア活動を支援する。 ⑧地域住民との連携：山田地区の市民を対象に、山田上ノ台遺跡の重要性を理解し、活用してもらうためのさまざまな活動を行う。 ⑨資料収集・保管：調査・研究に関わる文献や資料の収集・整理と、遺跡出土遺物の保管を行う。
収蔵資料	<p>当館は建設の経緯から、仙台市教育委員会で所蔵する山田上ノ台遺跡に関する常設展示資料、及びその他の出土資料を借用し、保管している。</p> <p>【常設展示関係資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①人工遺物 <ul style="list-style-type: none"> ○山田上ノ台遺跡出土縄文時代の資料 土器40点・石器141点・土製品7点 ○山田上ノ台遺跡出土旧石器時代の資料 石器11点 ②山田上ノ台遺跡発掘調査関連資料・写真資料・文献

【保管資料】

①山田上ノ台遺跡出土遺物

- 山田上ノ台遺跡第1次調査 旧石器時代の資料(テンバコ32)3箱・登録縄文土器344点・円盤型土製品1059点・土器破片99点・石鏃270点・石匙62点・石錐79点・範状石器38点・その他石器9467点・石核(テンバコ32)2箱・凹石393点・礫石器(テンバコ32)6箱・磨製石器688点・焼礫(テンバコ32)6箱・石皿14点・扁平石(テンバコ32)5箱・打製石斧5点・磨製石斧40点・石製円盤11点・砥石12点・石刀3点・石剣1点・石棒1点・玦状耳飾1点・登録土師器63点・土師器破片(テンバコ32)2箱・登録須恵器13点・須恵器破片(テンバコ32)2箱・陶磁器72点・釘68点・鏡1点・金属製品16点・木製品2点・墓石1基・石碑1基・人骨(テンバコ32)5箱・未整理(テンバコ32)1箱・土壤サンプル(テンバコ32)1箱
- 山田上ノ台遺跡第2次調査 旧石器時代の資料(テンバコ16)1箱
- 山田上ノ台遺跡第3次調査 石器(テンバコ32)2箱・接合資料26点・礫石器(テンバコ32)6箱・縄文土器(テンバコ32)1箱・炭化物(テンバコ32)1箱・土壤サンプル(テンバコ32)12箱

②縄文関連遺跡出土遺物

- 下ノ内浦遺跡 遺物40点・パネル2枚
- 伊古田遺跡 遺物47点・パネル1枚
- 上野遺跡 遺物13点
- 王ノ壇遺跡 遺物4点
- 下ノ内遺跡 遺物2点・パネル2枚
- 山口遺跡 遺物2点
- 六反田遺跡 遺物2点・パネル1枚
- 大野田遺跡 遺物20点 パネル2枚
- 北前遺跡・高柳遺跡・三神峯遺跡・鍛冶屋敷遺跡 各1点

③寄贈図書

- 博物館及び教育委員会など

④購入図書

- 定期購読図書:月刊考古学ジャーナル・博物館研究など
- 一般図書:縄文時代・考古学・博物館学など



仙台市縄文の森広場 キャラクター
ハナちゃん

[地底の森ミュージアム]

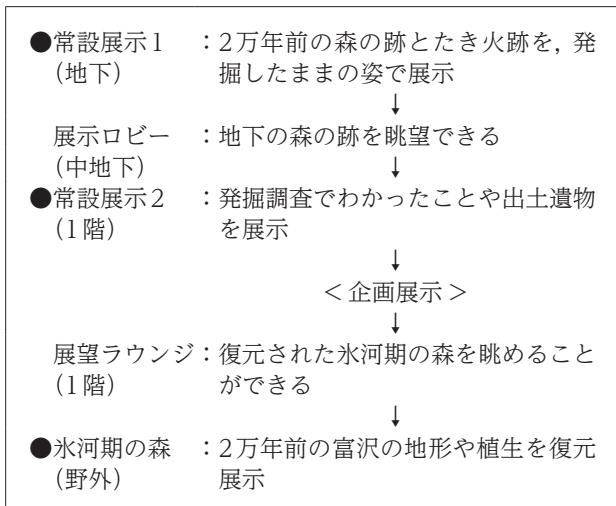
1. 令和6年度事業報告

(1) 展示事業

① 常設展示

i) 展示の構成

来館者は最初に地下の「常設展示1」で、発掘された2万年前の森の跡と人類の生活跡を見学する。次に発掘調査の成果を「常設展示2」を通して理解し、さらに企画展を開催している場合はこれを見学する。そして、最後に保存館より外に出て、復元された旧石器時代の森の中を散策しながら楽しめるように構成されている。なお、館内の展示サインは日本語・英語・中国語・韓国語の4ヶ国語表記としている。



ii) 展示の方法とねらい

現地保存型の遺跡博物館施設としての特徴を生かし、常設展示1で最初に2万年前の遺跡そのものを見ることから始まる展示構成は、来館者におおむね好評である。団体の見学も多く、展示説明を希望される場合は、職員及びボランティアスタッフが館内の説明を行いながら一緒にまわっている。野外展示は、環境学習の場として活用が広がるとともに、鳥類や昆虫類が来訪および生息する地域の緑地として機能している。

○常設展示1(地下展示室)

・展示 : 900m²の楕円形の大空間に広がる「本物」の遺跡と、壁面に広く映し出される湿地林の風景や昇降式スクリーンでの復元映画の放映などによる演出により、富沢の環境と旧石器人の活動のようすを伝えている(昇降式スクリーンの不具合により、令和4年2月25日からは復元映画

を壁面に映し出す演出へと変更した)。

・保存公開 : 地下展示室では、温湿度の設定値の調整、地下水位については排水ポンプの調整によって、保存・公開に適した状態を維持することに努めた。室内は湿度70%以上を保つようにしているが、外気の湿度の影響を受けることもあったため、平成10年に地下展示室への出入口4ヶ所に扉(自動扉2ヶ所を含む)を設置する工事を行い、湿度の安定を図った。保存処理及び管理については(株)C&P研究所に委託し、仙台市教育委員会と当館の三者で打合せを行なながら進めた。その際、猪股宏氏(東北大学未来科学技術共同研究センター)、佐々木淑美氏(元 東北芸術工科大学芸術学部文化財保存修復学科)の指導・助言を得た。

○常設展示2(1階展示室)

・展示 : 展示の構成は、順に a. 氷河期へのいざない、 b. 富沢での人類の活動をテーマとする展示、 c. 富沢の自然環境をテーマとする展示、 d. 復元画と立体映像による展示となっている。b・cでの「富沢博士」が謎解きをしながら調査でわかったことを説明していく展示方法や、全体をおいて映像や模型、グラフィックパネルなど、視覚的な面を重視した展示は、大人から子どもまで楽しめる内容となっていて、小・中学生の学習活動に利用されるなど、好感をもたれている。特に立体映像とジオラマ模型を組み合わせた展示は子どもたちに人気が高い。

○野外展示

・植生 : 仙台周辺には自生していない植物が多いことから、仙台市教育委員会と当館が打合せを行なながら、植生の維持と管理に努めている。その際には東北大学名誉教授の鈴木三男氏、東北大学植物園の牧雅之氏・伊東拓朗氏らに助言・指導を求めながら進めている。また、植物生態調査・DNA分析については、国立大学法人東北大学学術資源研究公開センターへの委託研究として実施した。

②企画展示

○企画展

i) 第106回企画展「<仙台の遺跡めぐり : 霊屋下セコイヤ類化石林>うもれぎ、多様性。」

○会期 : 4月26日(金)~7月21日(日)

○開催日数 : 73日間

○入館者数 : 10,610人

○会場 : 企画展示室

○展示内容 : 仙台市指定天然記念物「靈屋下セコイヤ類化石林」の【珪化木】や【埋もれ木】、富沢遺跡の旧石器時代の【埋没林】など、大地の中には長い年月をかけて姿を変えた

木々が眠っている。本展では、広瀬川周辺で採集された珪化木や埋もれ木、仙台市内の遺跡から出土した珪化木の石器の他、仙台の伝統工芸品である埋もれ木細工など、大地の中に埋もれていた木々たちの多様な姿を紹介した。



第106回企画展チラシ



第106回企画展 展示のようす

○展示構成：出土資料および写真・文字パネルによる展示

○印刷物：ポスター(4色)B2 400枚、チラシ(表面4色・裏面1色)A4 6,500枚

○協力機関：魚津埋没林博物館、旧橋川埋木店、さんべ縄文の森ミュージアム、仙台市科学館、仙台市教育委員会、仙台市歴史民俗資料館、筑波実験植物園、東北大学総合学術博物館(五十音順)

○関連行事

・関連講座「悠久の木のかけら - 炭化と珪化の鑑賞会 -」

日時：6月22日(土) 13:30～15:30

講師：伊達伸明氏(美術家／学校法人 瓜生山学園 京都

芸術大学 教授)

会場：研修室

参加者数：36人

・関連イベント「埋もれ木細工職人・鈴木綾乃さんと一緒に埋もれ木を磨いてみよう！」

日時：7月20日(土) 13:30～14:30

講師：鈴木綾乃氏(埋もれ木細工職人)

会場：研修室

参加者数：25人

・ギャラリートーク & 埋もれ木磨き体験

日時：4月29日(月・祝)・5月18日(土)・6月16日(日)

10:30～11:30／13:30～15:00

講師：当館職員

会場：研修室

参加者数：のべ191人

第106回企画展 関連イベント
「悠久の木のかけら—炭化と珪化の鑑賞会—」

ii) 第107回企画展「土のなかのメッセージ」

○会期：9月6日(金)～11月17日(日)

○開催日数：62日間

○入館者数：8,928人

○会場：企画展示室

○展示内容：人の暮らした跡、自然現象の跡、動植物の暮らした跡など、たくさんの情報がつまっている土の中を、宮城県内の遺跡を発掘調査した際にみつかった地層剥ぎ取り資料を通して紹介した。

○展示構成：地層剥ぎ取り資料および写真・文字パネルによる展示

○印刷物：ノベルティ葉(片面2色)130*60mm 1,000枚

○広報：市政だより・ホームページ・各種広報誌などにより宣伝を行った。

○協力機関：奥松島縄文村歴史資料館、七ヶ浜町歴史資料館、仙台市教育委員会、東北大学埋蔵文化財調査室(五十音順)



第107回企画展 展示のようす

○関連行事

・ギャラリートーク

日時：9月8日(日)・10月27日(日)・11月2日(土)
11:00～

講師：当館職員

参加者数：のべ22人

iii) 特別企画展「氷河期の景色あと」

○会期：1月10日(金)～3月2日(日)

○開催日数：42日間

○入館者数：6,040人

○会場：企画展示室・研修室

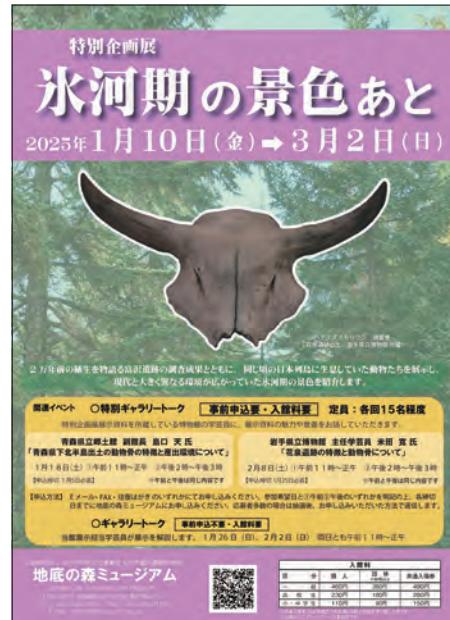
○展示内容：2万年前の植生を具体的に物語る富沢遺跡の調査成果とともに、同時期の日本列島に生息していた動物たちを紹介し、現代と大きく異なる環境が広がっていた氷期の環境を示した。

○展示構成：出土資料および写真・文字パネルによる展示

○印刷物：ポスター(4色)B2 4枚、チラシ(表面4色)A4 7,000枚、図録A4判(カラー32頁)500部、フロアシート(1m*1m)3枚

○広報：市政だより・ホームページ・各種広報誌などにより宣伝を行った。また、ポスター・チラシを関係機関・各所に配布した。

○協力機関：青森県立郷土館、岩手県立博物館、奥松島縄文村歴史資料館、仙台市教育委員会、花巻市総合文化財セ



特別企画展チラシ



特別企画展 展示のようす

ンター(五十音順)

○関連行事

1) 特別ギャラリートーク

第1回「青森県下北半島出土の動物骨の特徴と産出環境について」講師：島口天氏(青森県立郷土館)

1月18日(土) 11:00～12:00／14:00～15:00

参加者：のべ26名

第2回「花泉遺跡の特徴と動物骨について」

講師：米田寛氏(岩手県立博物館)

2月8日(土) 11:00～12:00／14:00～15:00

参加者：のべ26名

2) ギャラリートーク

1月26日(日)・2月2日(日)

両日 11:00～

参加者：のべ16名



特別企画展関連行事 特別ギャラリートーク

③連携展示

i) Kid's 考古学新聞コンクール

全国子ども考古学が主催する「Kid's 考古学新聞コンクール」受賞作品と応募作品15点を展示した。縄文の森広場と合同で開催した。

○会期：10月25日（金）～11月9日（土）

○開催日数：14日間

○会場：展望ラウンジ



kid's 考古学新聞コンクール

（2）普及啓発事業

①学校教育との連携

i) 利用状況

令和6年度の総入館者数における小・中学生の割合は16%であり、そのうちの68%が学校利用であった。近隣の小学校には、生活科や総合的な学習の時間など異なる教科での学習活動や季節毎の自然観察など、複数回利用する学年もみられた。

ii) 利用学習

仙台市内の小・中学校と連携して授業を実践する事業である。各校における博物館活用を、当館と縄文の森広場の

職員とボランティアが授業を行う形で実施してきた。6月6日（木）から10月まで13校760人が当館を利用した。学校の児童数に応じてグループに分け、「展示見学（館内）」「石器使用体験」の学習プログラムをローテーションする形で実施した。

iii) 職場体験活動

市内中学校からの職場体験活動の申し込みに基づき、7校23人の中学生を受け入れた。1回につき3日間2～4人を受け入れて実施した。体験内容は、清掃・受付業務、資料の取扱い・展示方法、野外展示の巡回などである。

iv) 博物館学芸員課程実務実習

県内の大学に通う学生、もしくは県外の大学に在籍する宮城県内出身の学生を中心に希望者（最大定員10人）を受け入れている。9月18日から9月22日の期間に、東北学院大学2人、尚絅学院大学1人、宮城学院女子大学1人、東北芸術工科大学2人、東京農業大学1人、石巻専修大学2人、6大学、計9人が参加した。



学芸員課程実務実習

v) 教職員機関研修

学校教育との連携を推進するため、仙台市教育センターの機関研修として行っている。8月2日（金）に実施し、1人が参加した。

vi) 学生サポーター

博物館における接遇経験や社会人としての意識を養うことを目的として、仙台市近郊の大学生有志にサポーターとして登録してもらい、当館が実施するイベントなどを補助してもらう事業である。2大学3人（東北学院大学・宮城学院大学）の登録があり、2回の活動があった。

②各種普及活動

i) 体験学習

旧石器時代のテーマミュージアムとして、旧石器時代の生活技術などについて、体験を通して紹介する事業を実施した。

○たのしい地底の森教室

富沢遺跡や野外展示「氷河期の森」を活用したイベントなど、来館者が当館に親しみをもってもらえるような体験や講座を実施した。事業例としては「仙台の昔を伝える紙芝居作り・上演実行委員会」の協力による地底の森ミュージアムをテーマにしたオリジナル紙芝居の上演、仙台市立仙台工業高等学校模型・動画部による当館の松ぼっくりを使用したワークショップなどを計8回実施した。

日程：5～3月　月1回程度の土・日・祝

場所：地下展示室・研修室・企画展示室・展望ラウンジ・

野外展示「氷河期の森」他

参加者：のべ544人



たのしい地底の森教室「紙芝居『冒險しんちゃん地底の旅』」



おいでよ地底の森2024秋(ハンノキと！キラキラマツボッカ☆)

○地底の森フェスタ2024

芝生広場を主な会場として、自由参加の形で開催し、当館ボランティアの協力を得ながら実施した。

日時：10月13日（日） 10:00～15:00



地底の森フェスタ

内容：やり投げコーナー、編布体験コーナー、石器体験コーナー、試食コーナー、ガイドツアーを実施。
実施時間帯はコーナーごとに異なる。

参加者数：のべ269人

○体験コーナー「石器をつかってみよう」

日時：日曜・祝日の13:30～15:00

対象：当日の入館者

内容：実際に紙を切って、石器の切れ味を体験してもらう。

○地域交流促進事業「2024 森の響き」

事業団の自主事業。当館をより身近に感じられるよう、地域の方々が気楽に参加しやすく、継続性を持った事業展開を意識して実施した。地域団体や学校と連携して「たき火編」と「コンサート編」を閉館後に実施した。

「たき火編」は「ながまち学びネット」と共催した。たき火の周囲でまいぎり式の火おこし体験と旧石器時代の狩人が登場する「狩人登場!!」を行った。

「コンサート編」は宮城県仙台三桜高等学校音楽部が地下展示室で合唱を行った。

【たき火編】

日時：11月23日（祝・土） 17:00～19:00

会場：芝生広場・研修室 参加者数：23人



2024森の響き「たき火編」

【コンサート編】

日時：2月1日（土） 17:30～18:10

会場：地下展示室

参加者数：57人



2024森の響き「コンサート編」

○歴史・芸術融合事業「ミュージアム・シアター“狩人登場!!”」

事業団の自主事業。演劇の手法を通じて当館の展示をより理解してもらう「ミュージアム・シアター」として、「劇団 MICHInoX」の劇団員が、旧石器時代の狩人に扮して館内外に登場した。

小中学生だけでなく一般の方にも広く楽しんでいただけるように、夏休み・冬休みを中心に「狩人登場!!」を行うことを主として実施した。また、地下展示室にて演劇要素を強めた「富沢博士版」を複数回実施し好評であった。

開催期間：7～9月（前期）、10～2月（後期）

回数：20回

参加者数：753人



狩人登場「富沢博士版」



狩人登場「野外出現版」

○映像・記録発信事業「地底の森アーカイブス」

事業団の自主事業。令和6年度は、360度・VR動画「ミュージアム・シアター狩人登場!! 石器編」を制作しYouTubeで公開した。また、館内で360度・VR動画の視聴体験会を行うなど、公開動画の広報活動を中心に活動を行った。

- ・360度・VR動画「地底の森ミュージアムに旧石器時代の狩人登場!!」視聴体験

日時：12月14日（土） 13:00～15:30

参加者数：のべ15人



地底の森アーカイブス 視聴体験会

ii) 各種講座

○考古学講座

生涯学習事業の一環として、一般を対象に最新の研究成果を取り上げる講座を2回実施した。第2回では会場とオンライン配信を併用して行い、オンライン配信には県外の方からも多く申し込みいただいた。

- 第1回「春日社古墳出土革盾の意義と保存」

日時：10月26日（土） 13:30～15:00

講師：荒井格氏（元仙台市教育委員会文化財課職員）

会場：研修室

参加者数：45人



第1回考古学講座

第2回「地底の森の年代を測る—放射性炭素年代測定法の話—

日時：3月8日（土） 13:30～15:00

講師：山田しよう氏（ハーバード大学 Ph.D.）

会場：研修室

参加者数：89人（会場28人、オンライン61人）



第2回考古学講座

○富沢ゼミ

富沢遺跡や、その周辺地域の歴史・文化財を紹介する。宮城県内の考古資料を取り扱うミュージアムをテーマにした講座も開催した。

第1回「奥羽山脈・太白山・秋保温泉はどのようにしてで



第1回富沢ゼミ

きたのか？—太白区の地質と地形の成り立ち—」

講師：高嶋礼詩氏（東北大学総合学術博物館 館長）

日時：7月6日（土） 14:00～15:30

会場：研修室

参加者数：59人

第2回「みやぎの考古なミュージアム③山元町歴史民俗資料館—震災復興で発見・移設された飛鳥時代の壁画—」

講師：山田隆博氏（山元町教育委員会 生涯学習課）

日時：9月29日（日） 14:00～15:30

会場：研修室

参加者：40人



第2回富沢ゼミ

iii) 市民文化財研究員

応募者2人を対象に、学芸員による講義や各種体験、遺跡見学会など、遺跡や考古学に関する学習支援を実施した。1年間の活動成果として、自身で設定したテーマをもとにレポートを作成した。作成したレポートは当館ホームページにて公開している。



市民文化財研究員（東北歴史博物館見学会・当館ボランティア会と共に）

iv) ボランティア活動

ボランティア登録者は、昨年度からの継続者62人に、新規7人を加えて69人であった。来館者への展示解説や各種体験活動における補助等が行われた。新規登録者向けの



ボランティア活動のようす（おいでよ地底の森2024春）

養成講座を5回実施した。スキルアップを目的に、仙台市縄文の森広場と合同で、視察研修と養成講座を行った。

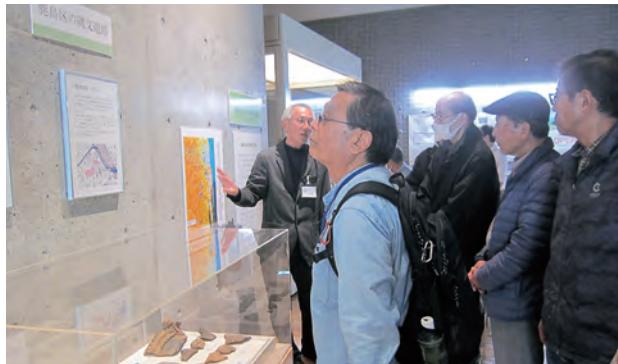
・視察研修

日時：①10月16日（水） 8:30～17:00

②11月17日（日） 8:30～17:00

視察先：浦尻貝塚貝塚観察館・南相馬市博物館

参加者数：①29人 ②15人



視察研修

・養成講座「復興と教育～被災した荒浜小学校の新たな出発～」

日時：2月27日（木） 13:30～14:30

講師：阿部淳一氏（縄文の森広場所長）

会場：縄文の森広場活動室

参加者数：13人

v) 運営懇談会

当館に隣接する町内会・小中学校・市民センターなどの方々に参加を依頼し、館事業を紹介し、運営のあり方について意見交換を行う場である。令和6年度は地元町内会長からの聞き取り調査を実施した。

日時：3月23日（日） 10:00～11:30

場所：地底の森ミュージアム事務室

協力：長町地蔵堂町内会 会長

vi) 出前対応

学校・市民センターなどからの依頼を受け、出前対応を行い、地域貢献を図るとともに館の広報にも努めた。

・大野田小学校5年生

5月2日（木） 10:45～12:20

6月27日（木） 10:45～12:20

・長町南小学校6年生

5月31日（金） 8:45～12:15

・七ヶ浜町歴史資料館

7月21日（日） 10:00～12:00

・尚絅学院大学

10月31日（木） 12:50～14:20

12月18日（水） 12:50～14:20

・泉崎1丁目南町内会

11月17日（日） 8:45～9:15

・富沢市民センター「第4回富沢ふれあいまつり」

10月6日（日） 10:00～12:00

・オーエンス泉岳自然ふれあい館「泉ヶ岳ファミリー アドベンチャー・秋」

10月19日（土） 13:30～16:30

vii) 学校・地域との協働事業

学校・地域と協働し、生涯学習活動や地域貢献のための取り組みを行った。

・大野田小学校5年生学習成果発表資料展示

8月6日（火）～8月18日（日）



大野田小5年生学習成果発表資料展示

ix) 国際交流

5月3日～7日にかけて大韓民国京畿道漣川郡全谷里で開催された第31回漣川旧石器祭（文化遺産教育と遺跡保存のための国際ワークショップ・世界旧石器体験広場）に参加し、石器づくりの実演パフォーマンスと、石器で紙を切って作る「石器で作ろう風車」を実施した。期間中、2000人を超える参加者がブースを訪れた。



第31回漣川旧石器祭

(3) 調査研究事業

○遺跡に関する各種分析調査と遺跡保存

保存公開している遺跡の現状を把握し、問題への対処などを検討するために保存処理検討会を開館以来継続して実施している。今年度は全員が集まる機会を調整できなかつたため、7月に個別打合せ、1月～2月に書面での聞き取り調査を行い、遺跡保存の現状確認と土壤に対する砂被覆実験方法の検討・経過観察、保存処理作業の記録化と情報公開などについて検討を行った。

遺跡に関する分析調査として、小型絶対圧式水位計を用いた地下水位測定と土壤水分・温度・ECセンサー記録のデータ分析等を実施した。



砂被覆実験箇所の経過観察

○研究報告の刊行

富沢遺跡保存館の調査研究活動の成果を発表し、これから博物館運営に役立てることを目的として、『地底の森ミュージアム・縄文の森広場研究報告2024』を刊行した。「ミュージアム・シアター「狩人登場!!」令和5～6年実施報告と十年間の変遷と展望」(堀江夏歩)、「ミュージアム・シアター「狩人登場!!」の課題と展望－演劇的な手法と観点からの所見－」(本田棕)、「仙台市富沢遺跡保存館に

おける温湿度計測結果－2023～2025年－」(平塚幸人)を掲載した。また、本書は館内で頒布する他、独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所のウェブサイト『全国遺跡報告総覧』を通じてPDFを公開している。

2. 施設管理

(1) 保守点検

月1回の保守点検日(1～11月は第4木曜日、12月は第3月曜日)を設け、再委託業務仕様書に基づき建物・設備の定期点検を実施した。

(2) 施設・設備などの修繕

開館から28年を経過した施設・設備は経年劣化による不具合が多発しており、緊急性を優先し修繕を行った。

- ①エレベータ既存の進相コンデンサに低濃度ポリ塩化ビフェニル(PCB)使用製品の恐れがあることが判明したため取替修繕。
- ②野外展示「氷河期の森」の池の汚れが目立ち生物・植物に影響の恐れがあるため、循環ろ過装置のろ材(砂・砂利など)の全入替、及び配管の取替修繕。
- ③地下1階空調機(ACU-1)、1階空調機(ACU-2)の加湿器モーターポンプが故障し、湿度管理ができないため取替修繕。
- ④空調設備の電源を制御する電源モジュール(1CP-1系統)が故障。1階の空調設備の一部が作動停止状態となり機器交換が必要となったが、同じ機器が供給停止のため、中古機器で対応。
- ⑤1階ひろびろトイレの自動ドア装置が経年劣化により故障し部品交換修繕。
- ⑥地下1階コインロッカー室天井照明器具まわりより漏水発生。漏電の可能性があるため電源を切り、壁にセンサーライトを新設。
- ⑦地下展示室天井の照明器劣化のため3か所故障、使用可能な照明器具と入替修繕。
- ⑧地下展示室の井水排水ポンプ3台(WP-1・2・3)故障のうち、WP-1・2は交換修繕済み。WP-2・3のインバータ制御装置が故障しているため手動にて稼働している。
- ⑨消防用設備修繕内容
 - ・1階常設展示室内・ひろびろトイレ、各1か所の光電式スポット煙感知器が経年劣化により作動不良。交換修繕。
 - ・中地下スロープ2か所の光電式スポット煙感知器が経

- 年劣化により作動不良。交換修繕。
- ・地下1階回廊南東側床の誘導灯(床埋め込み型)が経年劣化により作動不良。交換修繕。
 - ・1階展示室入口、防火ドア上部避難口誘導灯(壁埋め込み型)が経年劣化により作動不良。交換修繕。
 - ・1階警備員室出入口前床の誘導灯バッテリー不良のため交換修繕。
 - ・1階トイレ前防炎垂れ壁の開閉装置(モーター等)が故障し閉鎖できないため交換修繕。

3. 利用状況

令和6年度の開館日数は289日、入館者数は41,908人であった。前年度入館者数35,392人に比べ6,516人増、前年度比は118%である。

月別の入館者数を見ると、12月が前年度比158%となつたほか、2月・8月は130%以上、6月・7月を除いてほとんどが100%以上で、インバウンド需要もあり大変多くの来館者を迎えることができた。

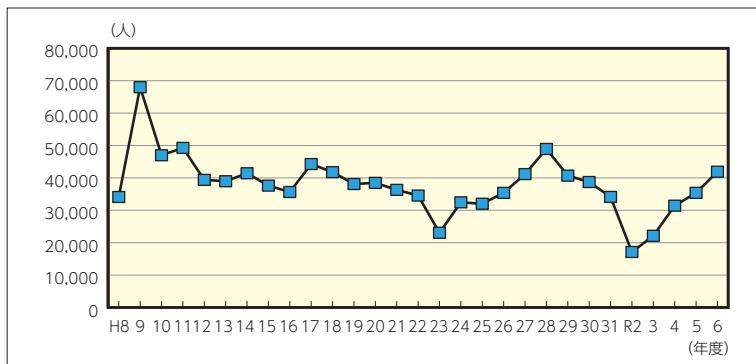
内訳を見ると、全体に占める有料入館者の割合は66.4%で、その82%近くが一般、次いで小・中学生となっている。なお、平成8年11月2日の開館から令和7年3月31日までの総入場者数は1,099,435人となった。

地域に根差し、活性化に資することを引き続き重視し、生涯学習活動に取り組んだ。例としては仙台市立仙台工業高等学校模型・動画部との協働「おいでよ地底の森 春2024」、宮城県仙台三桜高等学校との「探究学習」、小学校への出前講座、市民センターへの出前体験や講師派遣も積極的に行った。

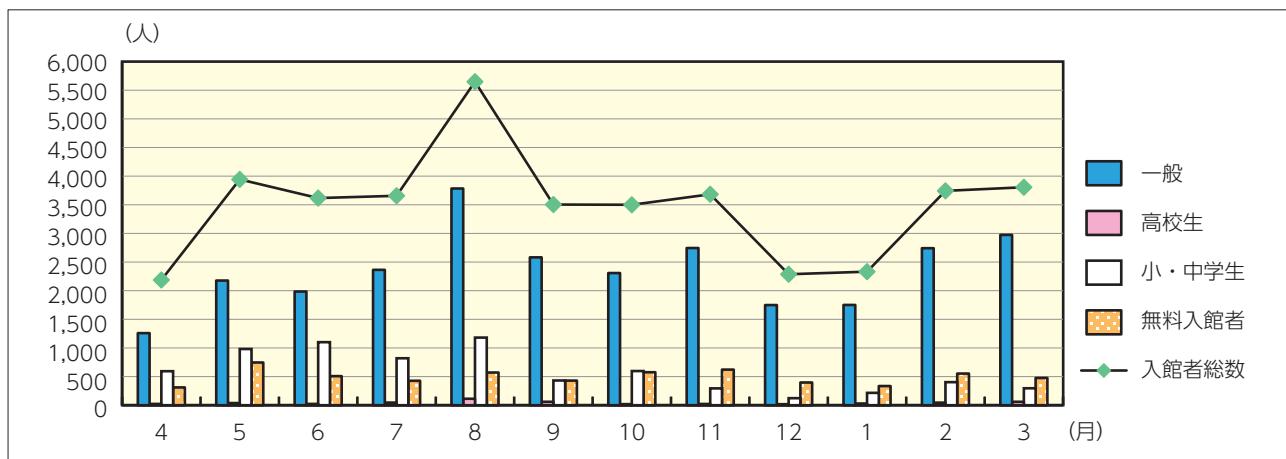
月別入館者数 (令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

月	有 料						小計	無 料			合計		
	個 人			団 体				減 免	無 料 入館者	小計			
	一般	高校生	小・中学生	一般	高校生	小・中学生							
4	1,041	22	247	49	1	171	1,531	169	176	311	656		
5	1,622	29	322	192	2	124	2,291	363	7	536	746		
6	1,513	23	244	78		138	1,996	394		719	508		
7	1,837	46	186	91		4	2,164	436		630	427		
8	3,234	112	489	117	1	13	3,966	433		679	571		
9	2,206	25	150	100	1	92	2,574	276	34	190	430		
10	1,929	18	103	73	1	153	2,277	306		341	576		
11	1,737	14	44	198	1	58	2,052	810	7	192	622		
12	1,303	18	51	269		3	1,644	177		69	397		
1	1,507	24	126	73	2	2	1,734	171	4	88	335		
2	2,470	43	126	81	2	2	2,724	191		275	553		
3	2,561	58	123	129	2	1	2,874	284		172	476		
計	22,960	432	2,211	1,450	13	761	27,827	4,010	52	4,067	5,952		
											14,081		
											41,908		

開館年度からの入館者数の推移



月別入館者数



4. 入館者アンケート

入館者の貴重な意見を活かした館活動を目指して、アンケートを実施している。記入された内容・要望・意見については館内で検討を行い、そのフィードバックを『お客様の声へのお答え』として展望ラウンジに設置した掲示板にてお知らせしている。同時に要望や改善については、できるだけ迅速に対応するよう努めている。アンケート用紙は常時所定の場所に設置し毎日回収している。

5. 令和7年度事業計画

(1) 展示事業

①常設展示

- i) 常設展示 1 (地下展示室)
富沢遺跡の発掘調査面の展示
- ii) 常設展示 2 (1階展示室)
出土資料をもとに調査成果を分かり易く解説した展示
- iii) 野外展示「氷河期の森」
2万年前の植生を復元した展示

②企画展示

- ◎特別企画展「大地の思い出 “そこ”にある森のあと」
会期：9月5日(金)～11月16日(日)
内容：噴火や洪水、気候変動などによって、遠い昔に生えていた木々がそのままの姿で残っているものを「埋没林」と呼んでいる。「埋没林」を体感できる「魚津埋没林博物館(富山県)」「さんべ縄文の森ミュージアム(島根県)」そして当館、3つのミュージアムの特徴と、それぞれの地域の風景を紹介する。

○関連企画

- 3館合同講座『“そこ”にある森のあと 一街場と海と山間と』
日時：9月21日(日) 14:00～16:30
会場：地底の森ミュージアム研修室
講師：中村唯史氏(島根県立三瓶自然館)・佐藤真樹氏(魚津埋没林博物館)・当館職員

○ギャラリートーク

- 日時：9月14日(日)・10月19日(日)・11月16日(日)
各日 11:00～

○企画展

- i) 第109回企画展「仙台の遺跡めぐり 仙台むかしのモノづくり」
会期：4月25日(金)～7月21日(月・祝)(会期62日間)
内容：古来よりヒトは、周囲に存在する様々な素材を加工し、必要なモノを作りながら生活してきた。それらの一部は土中で分解されてしまったが、今でも遺物・遺構として出土する。そして、これら残されたモノや製作時の痕跡を調査分析することで、当時の生活を解き明かす展示を行う。

○関連行事

- ・ギャラリートーク
日時：4月29日(火・祝)、5月17日(土)、6月15日(日)、7月13日(日) 10:30～11:30
講師：当館職員
会場：企画展示室

- ii) 第111回企画展「博物館からつながる 遺跡と人と自然」
会期：1月16日(金)～3月8日(日)

内容：これまでに実施された富沢遺跡の発掘調査成果やボランティア活動、また外部組織と連携した野外展示の植物の活用事例等を紹介する。

○関連行事

- ・ギャラリートーク、ワークショップ

日時：1～3月、月1回 10:30～11:30

講師：館職員・ボランティアほか

会場：企画展示室・研修室

(2) 普及啓発事業

①学校教育との連携

i) 利用学習（縄文の森広場と合同で実施）

仙台市内の小学校5・6年生及び中学校1年生を主対象とし、通年で当館の常設展示の見学・体験学習と縄文の森広場の常設展示の見学・各種縄文体験による学習を行う。

ii) 職場体験活動

市内中学校からの要請に応じて、通年で職場体験活動を受け入れる。

iii) 博物館実務実習

学芸員資格取得を目指す大学生を受け入れ、実習を行う。

期日：9月9日（火）～9月13日（土）

iv) 教職員利用研修

市内小・中学校の教職員を対象として、当館の展示と学習活動を紹介し、学校教育との連携のあり方を検討する。

日時：8月1日（金） 14:00～16:30

内容：施設の概要・見学・石器使用体験等

②考古学講座

先史時代に関する考古学・環境などのテーマを設定し、専門家による講座を2回実施する（縄文の森広場との連携事業）。

- ・第1回講座「未定」

期日：未定

講師：未定

会場：研修室

- ・第2回講座「未定」

期日：未定

講師：未定

会場：研修室

③富沢ゼミ

富沢遺跡や、その周辺地域の歴史・文化財を紹介する。宮城県内の考古資料を取り扱うミュージアムのスタッフによる講座も開催する。

- ・第1回「富沢遺跡の折れたナイフ形石器からみた石槍の歴史と人類」

日時：7月26日（土） 14:00～15:30

講師：佐川正敏氏（東北学院大学文学部歴史学科 教授）

会場：研修室

- ・第2回「みやぎの考古なミュージアム④名取市歴史民俗資料館—名取市の歴史と雷神山古墳一（仮）」

日時：2026年1月25日（日） 14:00～15:30

講師：鈴木美祐氏（名取市歴史民俗資料館 兼 教育部文化スポーツ課文化財係 主事）

会場：研修室

④たのしい地底の森教室

館職員が、当館に関わる様々なテーマに関して行う体験型イベント。各種体験教室や野外展示を活用した観察会なども組み込み、子どもが楽しめる内容を中心に実施。

期日：土・日・祝を中心に月1回程度

13:30～14:30（内容により事前申込制）

⑤地底の森フェスタ2025

市民を対象として、館内及び野外の芝生広場を会場に「やり投げ」・「編布コーナー」・「石器コーナー」などの体験活動を行う。

日時：10月12日（日） 10:00～15:00

⑥体験コーナー「石器をつかってみよう」

館スタッフが製作した石器を使用して、型紙を切る体験を実施する。

日時：日曜日・祝日 13:30～15:00

（館事業により休止する場合もある）

⑦市民文化財研究員の育成

公募した市民が、1年間にわたり隔週1回程度、当館で考古学や遺跡に関する学習活動を行う。館職員は、講義や遺跡見学会などの支援を行う。研究員は、それぞれのテーマに基づき自主学習を行い、その成果を活動報告にまとめる。

⑧ボランティア育成

市民文化財研究員を修了した希望者及び市民から募集し、展示解説や館行事の準備や補助などを行っていただくボランティアスタッフを養成する。また、登録している現

地底の森ミュージアム

ボランティアのスキルアップ研修も実施する（縄文の森広場との連携事業）。

i) 新規ボランティア養成講座

オリエンテーション：5月24日（土）

第1回：6月7日（土）

第2回：6月21日（土）

第3回：7月6日（日）

ii) ボランティア育成講座

第1回

講師：未定

日時：未定

第2回

講師：未定

日時：未定

iii) ボランティア遺跡見学会（縄文の森広場との合同見学会）

日程：10月、11月

場所：天童市西沼田遺跡公園・山形県立博物館

iv) ボランティア実技研修

講師：未定

日時：未定

⑨地域や大学との連携

地域の行事には積極的に参加・協働し、周辺の学校や生涯学習施設ならびに地域住民とともに地域文化の中核となる博物館をめざす。また市内大学と連携し、学生サポートとの協働も進めていく。

i) 地域・近隣学校などとの運営懇談会開催

ii) 地域・近隣学校などへの出前対応

iii) 体験学習事業での学生ボランティアとの協働

⑩インターネットおよびSNSによる情報発信

企画展や体験活動などの情報を広く一般の方々に提供するため、ホームページを開設し、常時更新しながら情報発信を行う。またFacebookやYouTubeでの情報発信も行う。

⑪事業団の自主事業

i) 歴史・芸術融合事業「ミュージアム・シアター“狩人登場！”」

市内を中心に演劇などの表現で活動している劇団「MICHIInoX」の劇団員が旧石器時代の狩人に扮し、館内外にて狩人出現とパフォーマンスを行う（20回程度）。

開催期間：6月～12月

ii) 地域交流促進事業「2025森の響き」

地域のイベントとしての定着と、地域の方々が参加しやすい形で野外展示「氷河期の森」の価値を高めることを目的として実施する。

たき火編　日時：11月15日（土） 16:00～18:00

コンサート編　日時：1月31日（土） 17:30～18:30

iii) 映像・記録発信事業「地底の森アーカイブス」

専門家の指導・助言を頂きながら、過去に撮影された写真等の整理、公開作業を行う。完成した動画は、YouTube等で公開する。

(3) 調査研究事業

①調査研究報告書の刊行

館職員・ボランティアスタッフなどによる考古学に関する調査研究活動及び研修活動の成果などを縄文の森広場と合同で「調査研究報告書」として刊行する。

②遺構の各種分析調査

地下の遺構面の維持・管理のため、専門家の指導・助言を頂きながら、適正な保存・管理を行うために遺跡保存処理検討会を2回実施する。

保存処理検討会 第1回：7月24日（木） 第2回：2月予定

③野外展示「氷河期の森」植生検討会・植生景観調査

野外展示「氷河期の森」の植栽の維持管理のため、植生検討会と植生調査を実施し、氷河期の森の維持について専門家の指導を受け、補植などを実施する。また、植生検討会は縄文の森広場と連携して実施し、植物の構成樹種の相違を活かした2つの異なる森づくりとその利活用を行う。

第1回 植生検討会：7月1日（火）

第2回 植生検討会：2月

植生調査・景観調査・DNA分析 6～3月

④常設展示の見直しに関する調査研究

開館から28年を超え、常設展の内容が最新の研究成果にそぐわない、反映していないところが増えてきた。来館者に正しい情報をより分かりやすく伝える展示内容や方法を検討する必要があるため、先進事例の調査や有識者を招き指導・助言をいただく場を設ける。

(4) 資料の収集・保管

①常設展示関係

仙台市教育委員会で所蔵する常設展示に関する資料を借用し保管する。

②保管資料

仙台市教育委員会が所蔵する旧石器時代・古墳時代に関する資料及び関係機関からの寄贈図書、購入図書、企画展実施のために製作した資料、寄贈資料などを収藏する。

(5) 管理運営

「仙台市先史遺跡保存活用施設条例」に基づいた「指定管理者事業計画書」により管理運営を実施する。あわせて「仙台市市民文化事業団事業運営に関する基本方針」（令和4年3月改訂）に沿い業務を進める。

(6) 刊行物

- ①ミュージアム通信 年3回
- ②企画展刊行物（展示図録、ポスター、チラシ）
- ③年報（縄文の森広場と合本）
- ④調査研究報告書（縄文の森広場と合本）
- ⑤リーフレット、パンフレット

6. 利用案内

●所在地

〒982-0012 宮城県仙台市太白区長町南四丁目3-1

●電話およびFAX

TEL 022(246)9153 FAX 022(246)9158

●Eメール

t-forest@coral.ocn.ne.jp

●ホームページ

<https://www.sendai-c.ed.jp/~bunkazai/~chiteinomori/>

●開館時間

午前9時～午後4時45分(入館は午後4時15分まで)

●入館料・共通券

区分	個人	団体	共通入場券
一般	460円	360円	490円
高校生	230円	180円	280円
小・中学生	110円	90円	150円

- ・団体は30人以上、引率者は30人につき1人無料
- ・「地底の森ミュージアム」「仙台市縄文の森広場」共通入場券

●休館日

月曜日(休日は開館)

休日の翌日(休日、土・日曜日にあたる日は開館)

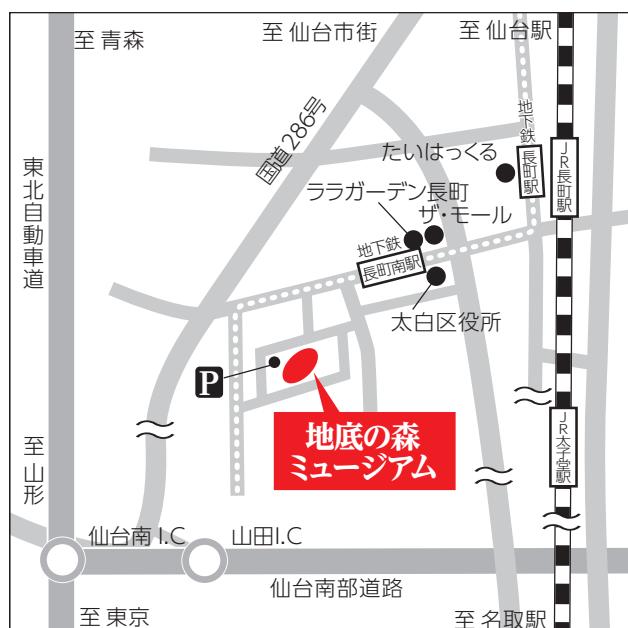
1月～11月の第4木曜日(休日は開館)

年末年始(12月28日～1月4日)

くん蒸のため臨時休館(12月24日～12月27日)

●交通案内

- ・仙台市営地下鉄南北線長町南駅より西へ徒歩約5分
- ・JR東北本線長町駅より西へ徒歩約20分・東北自動車道
仙台南インターフェースより東へ約7km



[仙台市縄文の森広場]

1. 令和6年度事業報告

令和6(2024)年度は、これまでのコロナ禍のために規模を縮小していた事業を少しずつ元に戻すように、事業の見直しなどを行い、計画・実施した。

(1) 展示事業

① 常設展示

○ エントランスホール

当館の概要及び特長を紹介する映像が流れ、当館が完成するまでの軌跡を円形の壁面パネルにて展示している。壁面にある展示ケースでは、体験作品の見本やミニ企画展の拡張展示など、定期的に展示内容を変更している。

当館ボランティア製作の複式炉模型の展示やオリジナルグッズの販売も行っている。



エントランスホール

○ ガイダンス展示室

<体験導入室1>「展示1 縄文ムラを発掘する」

山田上ノ台遺跡の発掘調査成果について、各種パネルや出土資料の展示などをとおして紹介している。床面には竪穴住居の出土状況写真も展示している。また発掘の原理、調査の実際などを模型やVTRを使って紹介している。

<体験導入室2>「展示2 縄文ムラがよみがえる」

山田上ノ台の縄文ムラの情景を模型で再現している。

・縄文学ラウンジ

縄文時代に関連した調べ学習ができるように、関連図書を整備している。くわえて縄文時代に食べられていたと考えられる木の実や雑穀などの実物も展示、紹介している。

・縄文土器 年表&パズル

約12,000年間続いた縄文時代の、時期ごとの土器型式の違いを、仙台市内の遺跡とともに紹介するパネルを展示している。

・縄文時代の環境復元

縄文時代の植物環境についての説明パネルと、花粉が顕微鏡で実際どのように観察できるのか、モニター展示している。

・土器、石器がおしえてくれること

土器に残された痕跡から分かること、石器の用途などを紹介している。

<体験導入室2>「展示3 縄文ムラのくらしが見える」

・縄文人のすまいとくらし

竪穴住居の内部の様子を模型で紹介して、土器や石器などの出土品からわかった縄文人の生活を紹介している。



竪穴住居内部の模型

② 企画展示

今年度は、東北の代表的な縄文遺跡について4回行った。

i) 春のコーナー展示

「東北の縄文遺跡—宮城県仙台市・上野遺跡—」

・会期：令和6年4月2日(火)～6月9日(日)

・入場者数：3,914人

・展示内容：仙台市に所在する縄文時代中期の上野遺跡から出土した縄文土器や石器、土笛と考えられる土製品などを3Dデータとともに展示した。

・展示構成：展示趣旨・遺跡地図及び遺跡紹介文字パネル・写真パネル・3D動画など。

ii) 夏のコーナー展示

「東北の縄文遺跡—宮城県女川町・内山遺跡—」

仙台市縄文の森広場

- ・会期：令和6年7月30日(火)～10月14日(月・祝)
- ・入場者数：5,018人
- ・展示内容：宮城県女川町に所在する縄文時代中期の内山遺跡から出土した土器や土器の底部圧痕、食料としたであろう貝殻や動物骨を展示した。
- ・展示構成：展示趣旨・遺跡地図及び遺跡・遺物紹介文字パネル・写真パネル

iii) 冬のコーナー展示

- 「東北の縄文遺跡—宮城県仙台市・高柳遺跡—」
- ・会期：12月3日(火)～令和7年2月16日(日)
 - ・入場者数：1,313人
 - ・展示内容：宮城県仙台市泉区に所在する縄文時代中期中の高柳遺跡から出土した土偶や、全体の文様を確認できる土器を展示した。
 - ・展示構成：展示趣旨・遺跡地図及び遺跡・遺物紹介文字パネル・写真パネル

iv) 春のコーナー展示

- 「東北の縄文遺跡—福島県本宮市・高木遺跡」
- ・会期：令和7年3月22日(土)～6月8日(日)
 - ・入場者数：238人(令和7年3月31日時点)
 - ・展示内容：福島県本宮市に所在する縄文時代中期後葉の高木遺跡から出土した、狩猟文のある土偶や製作の痕跡のある土偶、耳飾りをつけている土偶を中心に、土器を展示した。
 - ・展示構成：展示趣旨・遺跡地図及び遺跡紹介文字パネル・写真パネル・3Dデータを使用した土偶レプリカ



春のコーナー展 展示風景

③野外展示

i) 縄文ムラと広場

野外には、竪穴住居を復元し、その他の遺構を表示している縄文ムラゾーンと、植物栽培などを行う広場ゾーンが

ある。それらの周りにはクリやコナラなどの森を復元し、縄文時代の環境を含めて、集落を再現している。

・縄文ムラ (野外展示の東半部)

発掘調査では38棟の竪穴住居跡をはじめ、貯蔵穴、落とし穴などが多数見つかっており、各遺構は主に見晴らしの良い台地の縁辺に沿って造られている。野外の東側には同時期に建っていたことがわかった竪穴住居3棟を復元し、また周囲には貯蔵穴や落とし穴、ゴミ捨て場などの遺構を表示し、縄文時代のムラの様子を再現している。

・復元住居について

3棟の竪穴住居の復元については、いずれもクリ材で骨組みを造り、土屋根タイプの構造を採用している。その中の14号住居はガイダンス展示室内にも一部を復元している。14号住居は地面を円形に掘り凹めて平らな床をつくり、8本の柱を立て、屋根は土で葺いた竪穴住居である。入口にあたる床の南側には、小石で囲まれた土器と大きな河原石の石組みなどからできた複式炉と呼ばれる大きな炉がある。

・広場 (野外展示の西半部)

当時の広場と推定される場所を含めて西側一帯は、野外での縄文体験やイベント、縄文人が育てていた作物の栽培、体験活動を兼ねた発掘調査などを行う場として利用している。

ii) 植生

野外にはムラや広場とともに、縄文時代の森の様子を推定復元している。当時の植生についてはこれまでの研究で、縄文ムラの近くには現在の雑木林に近い落葉広葉樹林の豊かな森が広がっていたことがわかっている。これらを参考にして、高木はクリ、クルミ、トチ、コナラなど、低木はタラノキ、ガマズミ、ミズキ、ニワトコなど、草本ではササ、チガヤ、キキョウなどを植栽している。縄文の森広場植栽



植生検討会のようす

管理計画(2022~2026)をホームページで公開している。また、「植生検討会」での指導・助言を受けて、森の維持管理・充実を図っている。令和6年度は植生検討会を2回実施した。

iii) 縄文畑

野外広場の北西部には、縄文時代に栽培されていた可能性がある作物や有用植物の見本畑がある。現在はヒエ・アワ・キビの雑穀やエゴマ・ツルマメ・ヤブツルアズキの他に、アケビ、ヤマブドウ、カラムシ・マタタビを育てている。

(2) 普及啓発事業

①夏休み子ども考古学教室

小学生と保護者がさまざまな体験活動を実施しながら縄文時代に関する理解を深め、生活の様子や知識を学ぶ機会とすることを目的に実施した。火おこし体験・鹿の角を使ったアクセサリーブルーバーなど親子で楽しめるメニューの体験活動を行った。

- ・日時：7月27日(土) 10:00 ~ 14:00

- 8月17日(土) 10:00 ~ 14:00

- ・参加者数：のべ25人



夏休み子ども考古学教室のようす

②長期休暇特別イベント

より多くの市民に当館への興味関心を持ってもらうことを目的とし、市内小中学校の長期休暇期間にあわせて、普段とは異なる体験活動プログラムを無料で実施した。

○夏休み特別イベント

「つくって！縄文ー貝のアクセサリーブルーバー」

- ・日時：8月11日(日) 10:00 ~ 12:00, 13:00 ~ 15:00
- ・参加者数：175人

○秋休み特別イベント

「つくって！縄文ー拓本しおりづくりー」

- ・日時：10月12日(土) 10:00 ~ 12:00, 13:00 ~ 15:00
- ・参加者数：16人

○冬休み特別イベント

「つくって！縄文ー縄文ぬりえでつくるメッセージカードー」

- ・日時：12月25日(水) 10:00 ~ 12:00, 13:00 ~ 15:00
- ・参加者数：15人

○春休み特別イベント

「つくって！縄文ープラ板で縄文風ストラップをつくろうー」

- ・日時：3月29日(土) 10:00 ~ 12:00, 13:00 ~ 15:00
- ・参加者数：54人



特別イベント

③発掘資料整理体験教室

山田上ノ台遺跡の発掘調査で出土した土器や石器などの遺物に触れ、歴史を感じてもらうねらいで実施した。実際の整理作業と同じような遺物実測や拓本取りの作業体験が主な内容であった。

- ・日時：11月30日(土) 10:00 ~ 14:00

- ・参加者数：3組5人

④週末体験講座

さまざまな縄文体験を企画し、事前申込み制で実施した。

参加者アンケートによる満足度はどの回も高く、縄文時代に興味・関心を持ってくれている様子がうかがえた。

・「よもぎの草木染め」

4月27日(土) 10:00 ~ 12:00 参加者数：19人

・「縄文スープづくり」

5月19日(日) 9:30 ~ 13:00 参加者数：18人

・「縄文スープづくり」

6月30日(日) 9:30 ~ 13:00 参加者数：12人

仙台市縄文の森広場

・「縄文スープづくり」

9月8日(日) 14:00 ~ 18:00 参加者数：20人

・「干支の土製品づくり」

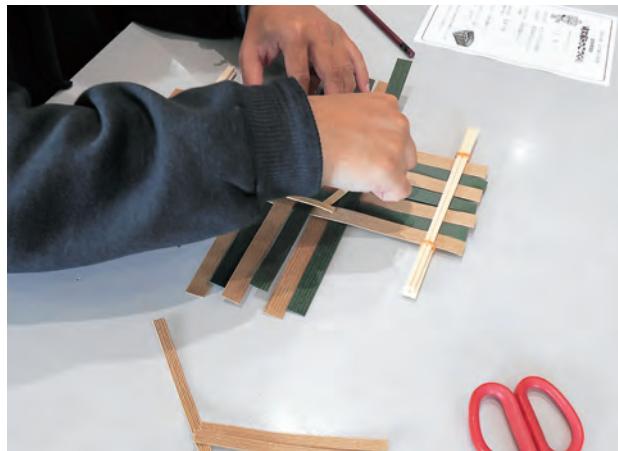
11月10日(日) 10:00 ~ 14:00 参加者数：20人

・「縄文編みかごづくり」

1月19日(日) 10:00 ~ 14:00 参加者数：15人

・「1kg土器づくり」

3月2日(日) 10:00 ~ 15:00 参加者数：18人



週末体験講座「縄文編みかごづくり」のようす

⑤縄文の森講座

3回のうち2回は県外から講師を招き、縄文時代についての最新情報や発掘調査についてお話をいただいた。また会場・オンラインの併用で実施した。

○第1回「東北地方の土偶を知る」

・日時：12月8日(日) 13:30 ~ 15:30

・参加者数：55人(会場42人 オンライン13人)

・講師：金子昭彦氏(岩手県立博物館)

○第2回「バラエティー豊かな出土品－福島県川俣町・前田遺跡の魅力を知る－」

・日時：1月26日(日) 13:30 ~ 15:30



縄文の森講座第2回のようす

・参加者数：46人(会場33人 オンライン13人)

・講師：三浦武司氏((公財)福島県文化振興財団遺跡調査部)

○第3回「仙台発掘最前線!! 2024」

・日時：2月23日(日) 13:30 ~ 15:30

・参加者数：56人(会場41人 オンライン15人)

・講師：庄子裕美氏、早川太陽氏、木村恒氏(仙台市教育委員会文化財課)

⑥縄文まつり・縄文コンサート

春季・秋季のまつりを実施した。

○縄文春まつり

・日時：5月12日(日) 10:00 ~ 15:00

・内容：コンサート(佐々木舞・高田志保他 計6団体), 各種ワークショップ, 弓矢体験, クイズラリー ほか
・参加者数：720人



春まつり

○縄文秋まつり

・日時：10月20日(日) 10:00 ~ 15:00

・内容：みちのく博物楽団, 天童市西沼田遺跡公園, スリーエム仙台市科学館のワークショップ, 太白小吹奏楽部・上野山若杉バンドのコンサート, 弓矢体験, クイズラリー ほか
・参加者数：699人

○縄文コンサート

・実施なし

⑦学校・地域連携促進事業

事業団の自主事業。山田上ノ台遺跡や縄文文化とは何であるのかを地域の人々に知っていただく機会を設け、近隣の小中学校や地域の市民センター・児童館との結びつきを深めることで、縄文の森広場がより地域に根差した施設と

なることを目的とする事業である。

- ・2月8日(土)「ドキ♥土器チョコレイト」
参加者数：13人
- ・2月15日(土)「発掘！ドッキー」 参加者数：15人
- ・3月8日(土)「ドキ♥土器チョコレイト」
参加者数：13人

⑧展示手法の開発と導入

事業団の自主事業。3次元データ計測とリビング・ヒストリーの2つを軸に今後の展示計画を検討した。令和6年度は、3次元データ計測を行った土偶のレプリカを作製し、展示の中で活用した。また、職員・ボランティア向けに海外の博物館事例についての講座を実施した。

- ・海外博物館事例講座「ペルーの博物館活動～JICA海外協力隊に参加して～」

日時：令和7年3月27日(木) 13:30～15:00

参加者数：29人

講師：山田めぐみ氏(元縄文の森広場職員)

⑨野外展示「縄文の森」の多目的活用「森でみつける“じょうもん”」

縄文時代の植生に興味関心を高めることを目的とした事業で、近隣の太白小学校1,2年生を対象として実施した。第1回目は、太白山自然観察の森で植生をレンジャーによる解説を聞きながら観察した。第2回目は、縄文の森広場で採取した木の実や枯れ葉、木の枝等を使って、縄文ムラを作製することを生活科の学習と関連させて実施した。

第1回目10月23日(水) 参加者数：52人

第2回目11月26日(火) 参加者数：50人



森でみつけるじょうもん

⑩運営懇談会

当館の活動を紹介し、地域の町内会や小・中学校、市民センターなどの方々の意見をいただき、事業に反映させる

ために実施するものであるが、当年度は近隣小学校への聞き取りを行った。

- 第1回目 12月20日(金) 太白小学校 校長と懇談
- 第2回目 1月16日(木) 上野山小学校 校長と懇談
- 第3回目 1月16日(木) 人来田小学校 校長と懇談

(3) 体験活動事業

①各種体験活動

- i) 随時体験

「火おこし」は当日受付で、「土器づくり」「土笛づくり」「手形・足形づくり」「勾玉・石のアクセサリーづくり」「石器づくり」「編布づくり」などは事前予約制で実施した。

- ・参加者数：3,732人

- ii) 団体の見学・体験

令和6年度は87組の団体から見学・体験の申込みがあり、延べ人数は2,010人である(出前講座・利用学習事業は除く)。団体の内訳は市内の小学校を中心に、県内外の小・中学校、デイサービスセンターなどである。体験活動は勾玉づくりや石のアクセサリーづくり、土器づくりなどである。令和5年度に比べ、県内の学校や一般の団体、介護施設等での利用が増加した。

- iii) 出前講座

小学校・市民センターなどの依頼で、職員が希望の場所へ出向いて体験活動を行った。今年度は市内外の小・中学校やPTA行事、市民センター、児童館、放課後等デイサービスなど42件に対応した。

- ・参加者数：2,115人

②学校教育との連携

- i) 利用学習事業

学校の授業の一環として、地底の森ミュージアム及び当館が交通費(バス代)を負担し、体験活動と展示見学を組み合わせた学習活動を行う利用学習事業には、市内16の小学校945人の参加があった。また、令和2年度から新学習指導要領が改訂され、歴史学習の開始時期が変更になったこともあり、6～7月の利用が中心となっている。本事業の詳細は当館ホームページ上にて公開している「利用学習実践報告」を参照されたい。



利用学習

ii) 博物館実務実習

大学で行われている博物館学の講義の一環として、学芸員資格取得のための実習を行った。館運営に関する講座のほか、教育普及の実践として縄文秋まつりの準備や対応を行った。

- ・10月16日(水)～20日(日)
- ・参加者数：2校3人

iii) 教職員機関研修

学校教育との連携をはかる事業の一環として、市内小中学校教職員を対象に参加者を募集し、当館の概要説明や体験活動の周知を図る。

- ・日時：8月2日(金) 9:30～12:00
- ・参加者数：1校1人

iv) 職場体験活動

5～11月に市内中学校5校から職場体験の申し込みがあり、対応した。当館の勤務内容を体験するとともに、事業内容などについても説明を行った。

- ・受入：5校24人



職場体験

v) インターンシップ

令和6年度は希望がなかったため実施しなかった。

(4) ボランティア活動事業

①ボランティア育成講座

ボランティア新規応募者3人および活動を継続しているボランティアを対象に計6回の講座を開催した。内容はボランティア活動の概要、体験活動の技術研修などである。

第1回 4月21日(日) 10:00～12:00

オリエンテーション・施設見学

参加者数：3人

第2回 5月18日(土) 10:00～12:00 勾玉づくり

参加者数：3人

第3回 6月1日(土) 10:00～12:00 土器づくり

参加者数：3人

第4回 6月15日(土) 10:00～12:00 土笛づくり

参加者数：3人

第5回 6月29日(土) 10:00～12:00

編布コースターづくり

参加者数：2人

第6回 7月13日(土) 10:00～12:00 火おこし

参加者数：3人

県内外の施設を訪問する視察研修を地底の森ミュージアムと合同で10月16日(水)および11月17日(日)に実施した。貝塚観察館(浦尻貝塚)、南相馬市博物館の視察を行い、10月には29人、11月には15人の参加があった。



ボランティア視察研修のようす

②ボランティア会との連携

仙台市縄文の森広場ボランティア会は、当館の運営をあらゆる面で支えるボランティアスタッフが運営する組織である。平成18年5月28日に設立され、令和6年度は47人

が会員となった。館と会との連絡・調整は、毎月第4日曜日の定例会を中心に行っている。ここでは、館から翌月の事業に対する協力要請を説明したり協議したりしながら、サポート体制の構築をはかっている。また、記念品・ミュージアムグッズの製作も行っている。ボランティアによる手作りの「勾玉」・「編布」・「土製品」はいずれも好評を得ており、修学旅行の子どもたちや家族づれに特に人気が高い。

以上のような、多岐にわたるボランティア会の活動は、当館をより魅力的なものとするうえで非常に重要な役割を担っている。館とボランティア会との連携を、今後より多方面に展開し、強化していきたい。

○令和6年度のボランティア登録者数

- ・47人（前年度から継続44人＋新規3人）

○令和6年度のボランティアの活動実績

- ・のべ人数：347人
- ・のべ時間：1,874時間

（5）調査研究事業

①体験プログラムの開発

体験施設である当館にとって、新規体験プログラムの開発は来館者に飽きを感じさせないための重要な用件である。既存体験メニューの見直し、体験内容と縄文文化をより分かりやすく紹介する方法、および新規プログラムの開発に取り組んだ。週末体験講座ではクラフトテープを使用した「縄文編みかごづくり」体験を実施した。

②復元住居の維持管理

当館の野外広場にて復元・公開している土屋根式竪穴住居を、より良好な状態で維持管理する方法について検討を行った。

③ボランティアスタッフとの共同調査

縄文時代および当館の管理運営に関わる様々な内容について、ボランティアスタッフと共同で調査活動を行った。

④調査研究報告書

仙台市富沢遺跡保存館と合本で、『地底の森ミュージアム・縄文の森広場研究報告2024』を発刊した。

2. 利用状況

令和6年度の開館日数は293日で、その間の全利用者数19,012人であった。前年度の19,324人に比較すると、312人減となっている。

体験活動者数は7,900人（団体の複数体験者も含む）で、

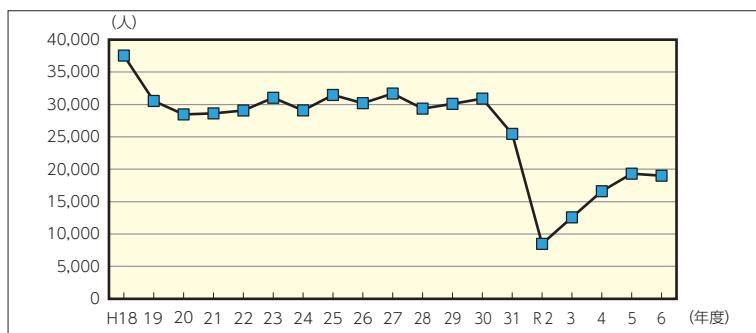
全利用者数の約42%となる。体験活動内容では石のアクセサリーブルクリが全体の33%を占めて最も多く、続いで勾玉体験29%と続く。

なお、平成18年7月15日の開館から令和7年3月31日までの入館者の累計は499,612人である。

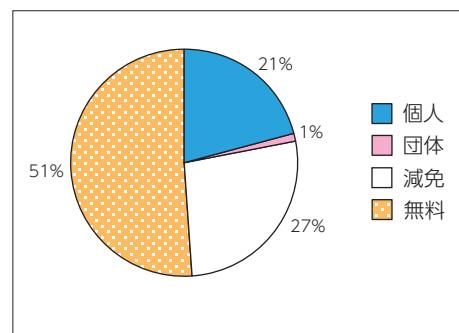
入館状況（令和6年4月1日から令和7年3月31日まで）

月	有 料						無 料						体験活動者	合計		
	個 人			団 体			計	減 免			無料 入館	計				
	一般	高校生	小・中学	一般	高校生	小・中学		一般	高校生	小・中学						
4	191	2	17	0	0	0	210	87	0	104	329	520	479	28	1,181	
5	253	4	25	8	0	33	323	89	0	181	1,109	1,379	628	154	2,176	
6	174	2	41	7	0	32	256	104	0	545	444	1,093	1,158	597	1,910	
7	313	2	24	0	0	0	339	205	0	419	261	885	1,228	460	1,992	
8	424	23	65	2	0	0	514	78	0	203	549	830	1,224	26	2,542	
9	188	2	3	1	0	32	226	50	0	143	500	693	640	142	1,417	
10	255	6	4	4	0	0	269	121	0	464	1,329	1,914	713	457	2,439	
11	183	1	0	1	0	35	220	134	0	152	623	909	531	188	1,472	
12	92	1	2	0	0	0	95	44	4	35	535	618	382	8	1,087	
1	84	1	2	0	0	0	87	34	0	50	240	324	279	0	690	
2	166	3	5	0	0	0	174	84	0	62	402	548	257	30	949	
3	191	4	10	2	0	0	207	76	0	92	447	615	381	46	1,157	
計	2,514	51	198	25	0	132	2,920	1,106	4	2,450	6,768	10,328	7,900	2,136	19,012	

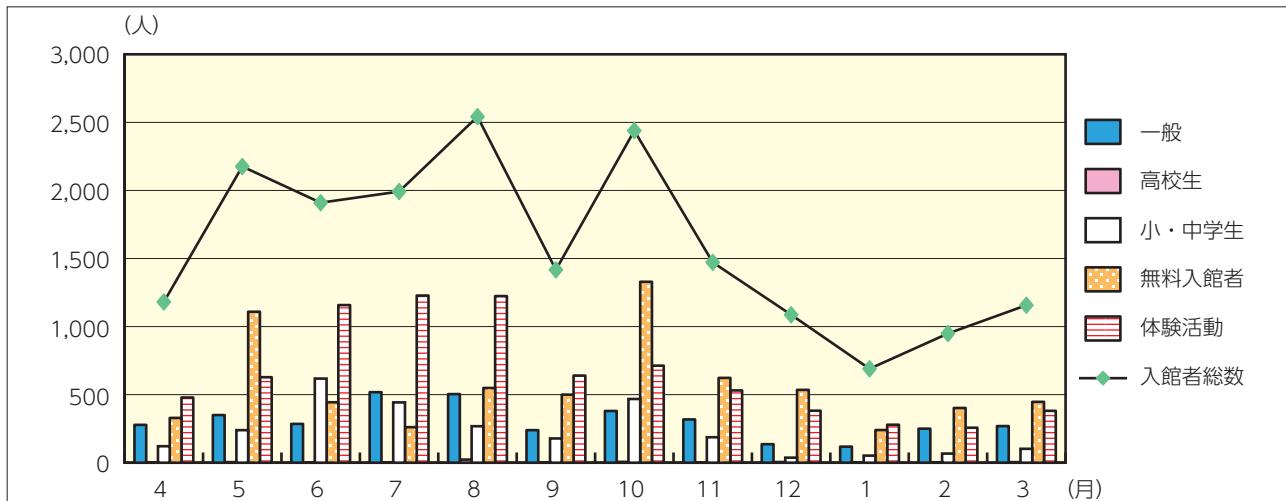
開館年度からの入場者推移



入館者内訳



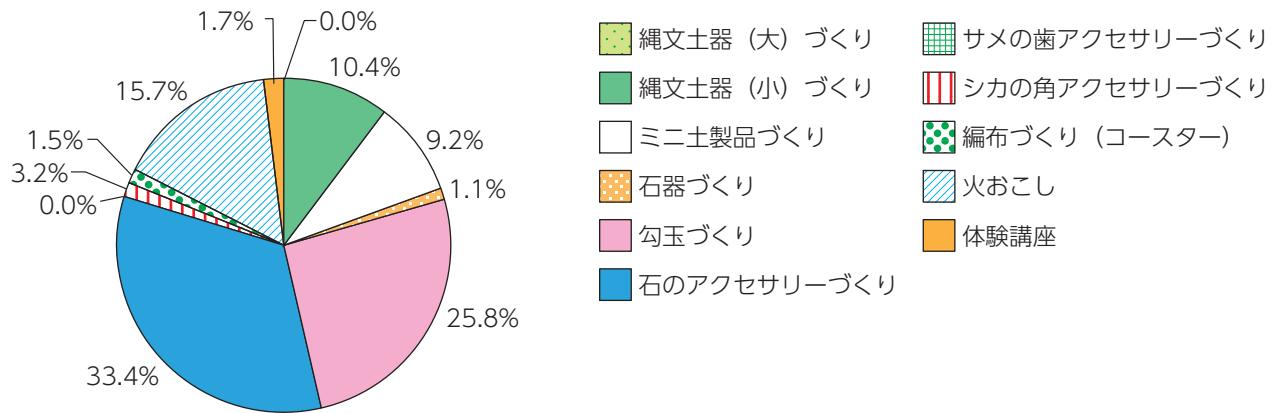
月別入館者数



体験活動数

(団体の複数体験も含む)

月	体験メニュー											合計
	縄文土器(大)づくり	縄文土器(小)づくり	ミニ土製品づくり	石器づくり	勾玉づくり	石のアクセサリーづくり	サメの歯アクセサリーづくり	シカの角アクセサリーづくり	編布づくり(コースター)	火おこし	体験講座	
4	0	36	31	11	30	77	0	4	11	111	14	325
5	0	216	31	8	47	140	0	9	3	96	15	565
6	0	14	67	11	466	347	0	6	2	102	10	1,025
7	0	196	52	2	188	378	0	13	7	82	6	924
8	0	65	137	12	183	224	0	11	12	183	7	834
9	0	35	23	2	40	254	0	10	4	67	15	450
10	0	13	51	2	212	235	0	5	20	61	0	599
11	0	9	57	3	47	170	0	4	19	43	16	368
12	0	9	7	7	224	49	0	1	1	30		328
1	0	10	49	0	26	64	0	2	8	45	10	214
2	0	11	20	3	32	43	0	5	0	53		167
3	0	15	31	3	69	45	0	9	3	76	10	261
計	0	629	556	64	1,564	2,026	0	79	90	949	103	6,060



3. 入館者アンケート

令和6年度のアンケートは、12月のみ実施した。

アンケートの結果から、80%以上の方々に催し物の内容を満足いただいた。職員の対応については、74%の方が満足と答えられていた。土器作りや勾玉作りなどの体験では、とても満足と満足を合わせて100%であった。

4. 令和7年度事業計画

(1) 基本方針

仙台市先史遺跡保存活用施設条例及び指定管理事業計画(別紙)に基づき、「人間と環境を考えるランドマーク」として地底の森ミュージアムと相互補完し合いながら、山田上ノ台遺跡の保存と公開及び縄文時代の資料の保存・調査・活用を行う。また様々な展示・体験・講座等を通して「歴史」に学ぶ活動を展開する。併せて当館の特色として調査・研究活動の成果を基にした「自然と共生した縄文人の知恵」を体験活動などに展開し、芸術分野や他分野との積極的な交流を推し進めながら、各年代層に応じた豊かな「学び」の機会を提供する施設を目指す。

(2) 展示事業

①コーナー展示

宮城県内を含む東北地方の縄文時代から発見された遺構と遺物を通して、縄文時代の人々の暮らしについて紹介する。

i) 春のコーナー展示

「東北の縄文遺跡—福島県本宮市・高木遺跡—」

・会期：令和7年3月22日(土)～6月8日(日)

・展示内容：福島県本宮市に所在する縄文時代中期後葉の高木遺跡から出土した、狩猟文のある土偶や製作の痕跡のある土偶、耳飾りをつけている土偶を中心に、土器を展示了。

・展示構成：展示趣旨・遺跡地図及び遺跡紹介文字パネル・写真パネルなど。

ii) 夏のコーナー展示

「東北の縄文遺跡—仙台市泉区・沼遺跡—」

・会期：7月25日(金)～10月19日(日)

・展示内容：宮城県仙台市泉区に所在する縄文時代中期の沼遺跡から発見された縄文土器や石器、石製

品などを展示した。

・展示構成：展示趣旨・遺跡地図及び遺跡紹介文字パネル・写真パネルなど。

iii) 冬のコーナー展示

「東北の縄文遺跡—宮城県南三陸町・大久保貝塚—」

・会期：12月2日(火)～令和8年2月15日(日)

・展示内容：宮城県南三陸町に所在する縄文時代後期・晚期の大久保貝塚から出土した土器や貝輪、土偶などを展示する。

・展示構成：展示趣旨・遺跡地図及び遺跡紹介文字パネル・写真パネルなど。

iv) 春のコーナー展示

「東北の縄文遺跡」内容未定

・会期：3月20日(金・祝)～未定

②野外展示「縄文の森広場」植生検討会

※地底の森ミュージアムと共同で実施

第1回：7月1日(火) 13:00～17:00

第2回：12～2月上旬予定

(3) 普及啓発事業

①ボランティア育成講座

新規のボランティア10名を募集し、来館者や参加者により分かりやすい説明や体験活動の補助を行うための研修事業。現ボランティアのスキルアップ研修も兼ねる。

第1回オリエンテーションを4月19日(土)に実施し、その後、月1～2回程度実施。

②縄文講座

考古学に関する講演会を実施し、最新の研究状況を取り上げる。オンラインでの配信も行う。

・12月7日(日)

・1月25日(日)

・2月22日(日) 各回とも 13:30～15:30

③縄文まつり(コンサート含む)

多くの人に開かれた、また地域密着型のミュージアムを目指して、誰もが気軽に参加し楽しめる総合型イベントを春と秋に開催する。

・5月11日(日) 10:00～15:00

・10月19日(日) 10:00～15:00

④夏休み子ども考古学教室

小学生及び保護者が、木の実を活用した調理体験を通して縄文時代の食文化について学び、縄文時代に関する知識を深めるきっかけとすることを目的に実施。どんぐりを使用した縄文クッキーづくりなど、親子で楽しめるメニューの体験活動を行う。

- ・7月26日(土) 10:00 ~ 14:00
- ・8月9日(土) 10:00 ~ 14:00

⑤特別イベント

市内小中学校の長期休暇期間にあわせて、普段とは異なる体験活動プログラムを無料で実施する。

- ・8月16日(土)「貝のミニブレスレッドづくり」
- ・10月11日(土)「クルミのストラップづくり」
- ・12月27日(土)「縄文スタンプのポストカードづくり」
- ・3月29日(日)「よりよりミサンガ」

⑥週末体験講座

様々な作品づくりや生活体験などを実施し、縄文人の技と心を学ぶ。

- ・4月26日(土)「縄文スープづくり」
- ・5月18日(日)「滑石アクセサリーづくり」
- ・6月29日(日)「カラムシの纖維をとろう」
- ・9月7日(日)「シカの角の釣針づくり」
- ・11月9日(日)「干支の土製品づくり」
- ・1月18日(日)「ドングリの草木染め」
- ・2月15日(日)「土面づくり」

⑦発掘体験教室

小学5年生以上を対象に出土遺物の実測・拓本などの整理作業に参加する体験を行う。

- ・11月16日(日) 10:00 ~ 14:00

⑧校外学習支援事業(利用学習)【地底の森ミュージアムと合同して実施】

仙台市内の小学校5・6年生及び中学校1年生を主たる対象とし、地底の森ミュージアムと当館の見学と各種の縄文体験による体験学習を行う。

参加予定校数：12校

⑨施設利用予約

利用学習事業参加校以外の学校、子ども会、町内会等の各種団体を対象として展示解説や縄文体験を行う。

⑩随時体験

来館者に様々な縄文体験メニューを提供する。参加者の利便性を高め、より多くの市民が気軽に当館を訪れ体験活動に参加できるよう火おこし体験は予約なしで随時受け入れることとする。また、10月1日より「勾玉・石のアクセサリーづくり」、「火おこし体験」は開館日に予約なしで随時受け入れとする(イベント等実施日以外)。

⑪教員機関研修【地底の森ミュージアムと合同実施】

学校教育との連携事業を推進するために、仙台市内の教職員を対象(定員20人)として当館の概要及び体験活動事業を周知する機会とする。

- ・8月1日(金)

⑫野外展示「縄文の森」の多目的活用「森でみつける『じょうもん』」

野外展示「縄文の森」の利活用の幅を広げるために、地域の団体や小学校などと連携した事業で専門家の指導を受けて太白山自然観察の森で自然観察をする。自然観察によって理解した様子を、木の実や枯れ葉、木の枝などを使って遊びながら自然の移り変わりを理解させる。

太白小1、2年生を対象として10月と11月頃に実施予定。

⑬博物館実務実習

学芸員資格取得をめざす大学生を数名受け入れ、実習を行う。

- ・10月16日(木)~19日(日), 21日(火)(計5日間)
9:00 ~ 16:00

⑭職場体験

近隣中学校の要請により、中学2年生を対象とした職場体験の受け入れなどを行う。

- ・5月~12月頃(学校の希望による)

⑮情報発信

- ・ホームページの更新
- ・Facebook, YouTube の更新
- ・館内の情報提供(掲示物:発掘調査情報、他施設イベント情報)

⑯ボランティア会との連携

- ・定期会開催と館運営の協力依頼
- ・自主的な会活動に対する支援
- ・ミュージアムグッズの共同開発と制作販売の支援

⑯地域と連携

町内会などの地域住民の行事に対しては、共催や後援等の形で活動の場を提供しながら支援を行う。

⑰運営懇談会

2月に実施

⑲専門研修

日程未定

⑳文化事業団の自主財源事業

- i) 学校・地域連携促進事業「縄文まるかじり」
縄文時代の遺物などを資源とした、他分野との協働作業開発・実施を行う。
- ii) 縄文の森オリジナルグッズ制作販売
- iii) 展示手法の開発・導入
 - ・縄文土器の3次元データ計測・作成
 - ・リビング・ヒストリー手法の調査

(4) 調査研究事業

- ①縄文時代に関する調査研究
- ②体験活動メニュー、プログラムに関する調査研究
- ③復元住居の経年変化等観察記録・分析にもとづく維持管理に関する調査研究
- ④西側広場一帯の整備に向けた調査研究
- ⑤ボランティアスタッフとの共同調査研究の実施
- ⑥上記の研究成果をまとめた調査報告書を地底の森ミュージアムと合本で刊行
- ⑦2026年度コーナー展示の資料調査

(5) 資料の収集・保管

- ①仙台市から借用保管している山田上ノ台遺跡等の縄文時代を中心とした資料を適切に管理し、各種事業活動に活かす。
- ②事業活動の充実を図るため、縄文時代を中心とした資料、及び縄文時代に関する文献の収集を行う。

(6) 管理運営

「仙台市先史遺跡保存活用施設条例」に基づいた「指定管理者事業計画書」により管理運営を実施する。令和4年度から施行の「仙台市市民文化事業団事業運営に関する基本指針」に沿い業務を進める。

(7) 刊行物

- ①ミュージアム通信 年3回
- ②イベント紹介チラシ 年2回
- ③年報(地底の森ミュージアムと合本で)
- ④調査研究報告書(地底の森ミュージアムと合本で)
- ⑤リーフレット、パンフレット、封筒

5. 利用案内

●所在地

〒 982-0815 宮城県仙台市太白区山田上ノ台町 10-1

●電話およびFAX

TEL 022(307) 5665 FAX 022(743) 6771

●Eメール

j-hiroba@cap.ocn.ne.jp

●ホームページ

<https://www.sendai-c.ed.jp/~bunkazai/~jyoumon/>

●開館時間

午前9時～午後4時45分（入館は午後4時15分まで）

●入館料・共通券

区分	個人	団体	共通入場券
一般	200円	160円	490円
高校生	150円	120円	280円
小・中学生	100円	80円	150円

- ・団体は30人以上、引率者は30人につき1人無料
- ・「地底の森ミュージアム」「仙台市縄文の森広場」共通入場券

●休館日

月曜日（休日は開館）

休日の翌日（休日、土・日曜日にあたる日は開館）

1月～11月の第4木曜日（休日は開館）

年末年始（12月28日～1月4日）

●交通案内

【バス】

県庁市役所～仙台駅～長町駅より宮城交通バス「秋保」「日本平」「茂庭台」「南ニュータウン」行きにて

「山田・太白消防署前」停留所下車徒歩5分

【車】

東北自動車道：仙台南インターから約4km

仙台南部道路：山田インターから約1km



地底の森ミュージアム・縄文の森広場年報 2025

発行日 令和7(2025)年11月30日

編集・発行 (公財)仙台市市民文化事業団 仙台市富沢遺跡保存館
〒982-0012 仙台市太白区長町南4-3-1 TEL (022) 246-9153

印 刷 今野印刷株式会社
〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-10 TEL (022) 288-6123



この印刷物は、環境にやさしい
「水なしLED-UV印刷」で印刷しています。